

上智大学
グリーフケア人材養成講座
Grief Care Professional Program



2024 年度
履修要覧・シラバス

グリーフケア人材養成課程
資格認定課程

上智大学グリーフケア研究所
【大阪サテライトキャンパス】

目 次

グリーフケア人材養成講座の概要	1
1. グリーフケア人材養成講座が養成する人材像	
2. グリーフケア人材養成課程の目的	
3. 資格認定課程の目的	
グリーフケア人材養成課程の3つのポリシー	2
1. 「臨床傾聴士」の資格認定に求められる基準（ディプロマ・ポリシー）	
2. グリーフケア人材養成課程の教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）	
3. グリーフケア人材養成課程の受講生の受け入れの方針（アドミッション・ポリシー）	
資格認定課程の3つのポリシー	3
1. 日本スピリチュアルケア学会認定「臨床スピリチュアルケア師」資格審査への受験資格基準（ディプロマ・ポリシー）	
2. 資格認定課程の教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）	
3. 資格認定課程の受講生の受け入れの方針（アドミッション・ポリシー）	
グリーフケア人材養成講座 担当教員一覧	4
ガイドページ	6
1. グリーフケア研究所の事務室及び事務取扱時間	
2. 受講生への連絡	
3. グリーフケア研究所への問合せ、教員への相談	
4. グリーフケア研究所の利用	
5. 図書館の利用	
6. 安全と安心のための心得	
7. 盗難に注意	
8. ハラスメント相談	
9. 個人情報保護	
受講料等	9
1. 受講料	
2. 修業年限を越えて科目を履修する場合の受講料	
3. 休学した場合の在籍料	
学事	10
1. 授業期間と学期	
2. 時間割	
3. 授業への出席・欠席	
4. 休講・補講	
5. リアクションペーパー	
6. 試験・レポート	

7. 成績評価	
8. 成績表の送付	
9. 再履修	
10. 講義・演習・実習等の記録および資料等の取り扱いについて	
11. グリーフケア人材養成課程の修了	
12. 資格認定課程の修了	
学籍	15
1. 受講生番号	
2. 受講生証	
3. 在学	
4. 休学	
5. 復学	
6. 退学	
7. 再入学	
8. 身上情報の変更	
カリキュラム・時間割	18
1. グリーフケア人材養成課程	
2. 資格認定課程	
3. 年間予定表【教務日程】	
シラバス	24
グリーフケア人材養成課程の演習科目で共通して取り組むこと	25
グリーフケア人材養成課程シラバス	26
資格認定課程シラバス	44
上智大学グリーフケア研究所人材養成講座細則	57
上智大学グリーフケア研究所臨床傾聴士に関する内規	60

【グリーフケア人材養成講座の概要】

1. グリーフケア人材養成講座が養成する人材像

上智大学の教育精神、“For Others, With Others - 他者のために、他者とともに生きる者”に基づき、死生学を基盤とし、さまざまな喪失によるグリーフ（悲嘆）を抱える個人や共同体に対して、スピリチュアルケアを提供できる人材の養成を目指します。

グリーフを抱える個人や共同体が持っている死生観やスピリチュアリティの多様性を前提として、スピリチュアルな課題（スピリチュアルペイン）に直面している悲嘆者に対し、ケア対象者・ケア提供者が共に各自の死生観・スピリチュアリティを十全に生きるケア関係の構築を目指し、深い臨床理解と変化に柔軟に対応したケア実践ができる人材を養成します。

2. グリーフケア人材養成課程の目的

- ① 医療、保健、社会福祉、介護、教育、宗教、その他、臨床の現場で対人援助の専門職としての活動において、グリーフケア、スピリチュアルケアを提供できる人材を養成します。
- ② 遺族会・患者会等のサポートグループのファシリテーション、またケア提供者同士のピアケアのリーダーシップを取れる人材を養成します。
- ③ ボランティアとして、医療・福祉等の現場、事件・事故あるいは災害等の現場、その他さまざまな現場において、グリーフ（悲嘆）を抱えた方々に寄り添い、耳を傾けることで、ケアを行うことができる人材を養成します。
- ④ 上智大学グリーフケア研究所が認定する臨床傾聴士として、スピリチュアルケアを含む全人格的なケアがあらゆる場面で実践される社会の実現に貢献する人材を養成します。

3. 資格認定課程の目的

- ① 医療、保健、社会福祉、介護、教育、宗教、その他、臨床の現場で対人援助の専門職としての活動において、グリーフケア、スピリチュアルケアを提供できる人材を養成します。
- ② 遺族会・患者会等のサポートグループのファシリテーション、またケア提供者同士のピアケアのリーダーシップを取れる人材を養成します。
- ③ ボランティアとして、医療・福祉等の現場、事件・事故あるいは災害等の現場、その他さまざまな現場において、グリーフ（悲嘆）を抱えた方々に寄り添い、耳を傾けることで、ケアを行うことができる人材を養成します。
- ④ 一般社団法人日本スピリチュアルケア学会が認定する「臨床スピリチュアルケア師」の資格を取得し、スピリチュアルケアを含む全人格的なケアがあらゆる場面で実践される社会の実現に貢献する人材を養成します。

【グリーフケア人材養成課程の3つのポリシー】

1. 「臨床傾聴士」の資格認定に求められる基準（ディプロマ・ポリシー）

- ① 課程修了に必要な単位を取得していること。
- ② 身体的・社会的・心理精神的な健康と有機的関連を持つスピリチュアルな健康について、知的・情緒的・実践的に理解していること。
- ③ 自身の中で働き、また将来を導くスピリチュアリティの力動とその背景を、自分自身の課題として理解し、それに継続して取り組む準備ができていること。
- ④ 宗教並びにスピリチュアリティの公共的役割について理解していること。
- ⑤ 現代社会のさまざまな宗教・思想・伝統について共感的かつ批判的に理解していること。
- ⑥ 自らのスピリチュアリティをケアの素材として提供しつつ、ケア対象者のスピリチュアリティの涵養を目指す基本的な活動をすることができること。
- ⑦ 上記①から⑥までの基準を満たしているかどうかを判定する総合審査に合格すること。

2. グリーフケア人材養成課程の教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

- ① 講義において、グリーフケア、スピリチュアルケアに関する本質的な理解を得るとともに、演習・グループワークを通して実践的に学ぶ。
- ② グリーフケア、スピリチュアルケアに関する知識・技能を修得するとともに、ケア者に必要とされる意識態度、またグリーフケア、スピリチュアルケアにとって重要となる多様な価値観、宗教観・死生観を学ぶ。
- ③ スピリチュアルケア提供者を目指す受講生自身が、教育的に構成された場で互いにスピリチュアルケアを受けることを通して、ケアを総合的・実践的に学ぶ。
- ④ 常に、受講生・指導者・研究所職員また援助対象者を含むすべての関係者が互いに尊厳を尊重し、各自のスピリチュアリティの涵養を目指す。

3. グリーフケア人材養成課程の受講生の受け入れの方針（アドミッション・ポリシー）

- ① 宗教者・対人援助職従事者もしくはそれらに準ずる立場に必要とされる、基本的なケア実践力またはその資質を持っていること。
- ② スピリチュアルケアに固有な人間観とそれに基づくケア実践力を身につけることを目指していること。
- ③ 講義および演習またグループワークを含む授業形態での学習において、受講生相互の成長を目指す意志があること。
- ④ 学習に支障をきたすような強いケアニーズを抱えていないこと。

【資格認定課程の3つのポリシー】

1. 一般社団法人日本スピリチュアルケア学会認定「臨床スピリチュアルケア師」資格審査への受験資格基準（ディプロマ・ポリシー）

- ① 課程修了に必要な単位を取得していること。
- ② 他者理解力、自己理解力、能動的関係力、受動的関係力、中動的関係力、言語表現・概念化力、倫理実践力を習得していること。
- ③ 身体的・社会的・心理精神的な健康と有機的関連を持つスピリチュアルな健康について、知的・情緒的・実践的に理解していること。
- ④ 自身の中で働き、また将来を導くスピリチュアリティの力動とその背景を、ケア提供者としての課題と理解し、それに継続して取り組んでいること。
- ⑤ 宗教並びにスピリチュアリティの公共的役割について理解していること。
- ⑥ 現代社会のさまざまな宗教・思想・伝統について共感的かつ批判的に理解していること。
- ⑦ 自らのスピリチュアリティをケアの素材として提供しつつ、ケア対象者のスピリチュアリティの涵養を目指す専門的な活動ができること。
- ⑧ 他職種との連携のなかでのスピリチュアルケア実践を理解し、チームの中で必要に応じて活動ができること。
- ⑨ 上記①から⑧までの基準を満たしているかを判定する総合審査に合格すること。

2. 資格認定課程の教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

- ① 他者理解力、自己理解力、能動的関係力、受動的関係力、中動的関係力、言語表現・概念化力、倫理実践力を総合的に学ぶ。
- ② 演習・グループワークを通して、グリーフケア、スピリチュアルケアを理論的かつ実践的に学ぶ。
- ③ グリーフケア、スピリチュアルケアの活動に密接に関連する学問領域について専門的に学ぶ。
- ④ グリーフケア、スピリチュアルケアに関する高度な知識・技能を修得するとともに、ケア者に必要とされる意識態度、またグリーフケア、スピリチュアルケアにとって重要となる多様な価値観、宗教観・死生観を把握する。
- ⑤ スピリチュアルケア提供者を目指す受講生自身が、教育的に構成された場で、互いにスピリチュアルケアを受けることを通して、ケアを体験的・実践的に学ぶ。
- ⑥ 受講生・指導者・研究所職員また援助対象者を含むすべての関係者が常に互いに尊厳を尊重し、各自のスピリチュアリティの涵養を目指す。

3. 資格認定課程の受講生の受け入れの方針（アドミッション・ポリシー）

- ① 宗教者・対人援助職従事者もしくはそれらに準ずる立場に必要とされる、基本的なケア実践力またはその資質を持っており、かつ、十分な活動実績を有していること。
- ② 社会において自らが果たそうとする役割や目標を十分に認識していること。
- ③ 講義および演習またグループワークを含む授業形態での学習において、受講生相互の成長を目指す意志があること。
- ④ ケア者としての基本的セルフケアの必要の理解と実践に努めており、学習に支障をきたすような強いケアニーズを抱えていないこと。

グリーフケア人材養成講座 担当教員一覧

(2024 年 4 月 1 日現在)

【専任教員】

氏 名	本務先等
山岡 三治	上智大学グリーフケア研究所 所長、カトリックイエズス会司祭
高木 慶子	生と死を考える会全国協議会 会長、カトリック援助修道会修道女
西平 直	上智大学グリーフケア研究所 副所長、特任教授
大村 哲夫	上智大学グリーフケア研究所 特任教授
栗原 幸江	上智大学グリーフケア研究所 特任教授
寺尾 寿芳	上智大学大学院実践宗教学研究科死生学専攻 教授
佐藤 啓介	上智大学大学院実践宗教学研究科死生学専攻 教授
葛西 賢太	上智大学大学院実践宗教学研究科死生学専攻 教授
原 敬子	上智大学神学部神学科 教授
酒井 陽介	上智大学神学部神学科 准教授
鈴木 伸国	上智大学文学部哲学科 教授

【非常勤講師】(五十音順)

氏 名	本務先等
池永 昌之	淀川キリスト教病院緩和医療内科主任部長
伊藤 高章	中央学術研究所研究員
井藤 美由紀	甲南大学非常勤講師、京都精華大学非常勤講師、園田学園女子大学非常勤講師、兵庫大学非常勤講師
尾池 真理	有限会社ケアサプライ たつみ訪問看護ステーション所長
大柴 譲治	日本福音ルーテル大阪教会牧師、るうてるホーム理事長・チャプレン、ルーテル学院理事長
大柴 賢珠	信愛学院大学看護学科非常勤講師
小笠原 将之	関西福祉科学大学心理科学部教授
岡下 晶子	一般財団法人薬師山病院 音楽療法士
梶山 徹	公益財団法人田附興風会医学研究所北野病院緩和ケアセンター長、緩和ケア科部長
柏木 雄次郎	市立豊中病院緩和ケアセンター特任顧問
勝田 恭子	NPO 法人てくてく音楽療法士、藤野住宅緩和ケアクリニック音楽療法士、(株)ジャストリブ音楽療法士、ひかりのつばみ自由クリニック音楽療法士
加納 麻子	社会医療法人平和会吉田病院医師
川島 正裕	市立岸和田市民病院緩和ケアセンター長、緩和ケア内科部長
岸本 寛史	静岡県立総合病院緩和医療科部長
木本 努	NPO 法人京都いえのこと勉強会理事長
児島 若菜	児島医院事務長、看護師、臨床心理士
坂井 祐円	新潟県立看護大学看護学部非常勤講師、同朋大学文学部・大学院文学研究科非常勤講師、南山宗教文化研究所非常勤研究員

氏 名	本務先等
坂下 裕子	子どもを亡くした家族の会「小さいのち」代表
里村 生英	スピリチュアルケア実践探究者、訪問楽師
篠田 美香	グリーフケア研究所副所長補佐
高階 奈津美	京都府警察本部警務部警察課犯罪被害者支援室
田中 あづ紀	虹のアトリエ代表
谷山 洋三	東北大学大学院文学研究科教授
田村 恵子	大阪歯科大学医療イノベーション研究推進機構事業化推進研究センター教授
中井 珠恵	愛染橋病院、協立記念病院チャプレン、京都文教大学大学院臨床心理研究科非常勤講師
西岡 秀爾	曹洞宗崇禅寺住職、四天王寺大学非常勤講師、花園大学非常勤講師
芳賀 孝子	いきかたアート代表
林 貴啓	同志社大学社会学部嘱託講師
松田 真理子	京都文教大学臨床心理学部教授、心理臨床センター所長、学生相談室長
三浦 紀夫	一般財団法人安住荘代表理事、NPO 法人ビハラー 21 理事
村上 典子	神戸赤十字病院心療内科部長
村川 治彦	関西大学人間健康学部教授
森 清顕	泰産寺住職、北法相宗宗務長、清水寺執事、
森田 敬史	龍谷大学大学院実践真宗学研究科特任教授
山口 宰	大阪大学大学院人間科学研究科特任准教授、社会福祉法人光朔会オリンピア常務理事
横山 正和	横山産業株式会社代表取締役
若麻積 敏隆	善光寺白蓮坊住職（代表役員）
和田 知未	医療法人双樹会守上クリニック医師
和田 信	大阪国際がんセンター 心療・緩和科部長

【ガイドページ】

1. グリーフケア研究所の事務室及び事務取扱時間

- (1) グリーフケア研究所の事務室の連絡先は、以下のとおりです。

電話： 06-6450-8651 FAX： 06-6450-8652

- (2) 事務取扱時間は下記の通りです。原則として時間外の取扱いはありません。

平日 月～金 10:00 ～ 12:00 13:00 ～ 18:00

土曜日 講座を開講する日 9:00 ～ 17:30

- (3) 授業のない土曜・日曜・祝日は休業です。
(4) 土曜・日曜・祝日以外の休業日及び業務その他の都合により、事務室の開室及び事務取扱時間に変更がある場合は、その都度、メール等で連絡します。

2. 受講生への連絡

- (1) グリーフケア研究所から受講生への連絡は、原則としてメールで行います。連絡用のメールアドレスを必ず登録してください。なお、成績表や受講料の振り込みなど、重要なお知らせは郵送します。

3. グリーフケア研究所への問合せ、教員への相談

- (1) 授業についての情報や履修に関する相談は、電話またはメールおよびグリーフケア研究所事務室に連絡してください。

電話 06-6450-8651

電子メール i-grief@sophia.ac.jp

- (2) グリーフケア研究所の専任教員は、受講生との相談時間（オフィスアワー）を設けています。グリーフケア研究所事務室にメールまたは電話で予約してください。
(3) 授業の担当教員に相談がある場合は、グリーフケア研究所事務室にメールにて相談ください。

4. グリーフケア研究所の利用

- (1) グリーフケア研究所では、自習スペースとして、ホールの一角（コピー機周辺）が利用できます。

利用時間： 月～金曜日 10:30～12:00 13:30～17:00

(12:00～13:30の昼休みは使用できません。)

- (2) 大阪サテライトキャンパスを、他の行事等で使用することがありますので、利用の際は、事前に研究所まで連絡してください。

5. 図書館の利用

- (1) グリーフケア人材養成講座の受講生は、研究所が備える図書資料を閲覧、貸出、複写をすることができます。また、映像資料（DVD）を視聴することができます。利用時間は以下のとおりです。

水曜日（授業実施日のみ） 10:30～12:00 13:00～18:00

月～金曜日（授業の無い日） 10:30～12:00、13:00～17:30

第2・4土曜日（授業実施日） 9:00～16:30

※ 授業日の授業時間中および授業終了後は利用できませんので、授業前または休憩時間に利用してください。

- (2) 書籍の貸出冊数と貸出期間は、以下のとおりです。なお、論文は閲覧のみとなります。

貸出冊数 書籍 5冊まで

貸出期間 14日間まで ただし、1回に限り延長可能

- (3) 書籍の貸出を希望する場合は、貸出希望図書と図書貸出カードをグリーフケア研究所事務室に提出してください。
- (4) 書籍を返却するときは、グリーフケア研究所事務室に渡してください。
- (5) 延長希望の場合は必ず貸出期限中に研究所までご連絡をください。

6. 安全と安心のための心得

- (1) キャンパス内にいる時に、大地震が発生したときは、まず自分の身の安全を確保してください。また、大学からの指示に従い、大学が指定する避難場所に避難してください。
- (2) 火災を発見したときは、周囲に大声で知らせ、近くの火災報知機のボタンを押すか、教員や研究所スタッフに連絡してください。なお、もし可能であるならば、近くの消火器等で初期消火をしてください。

7. 盗難に注意

- (1) 大阪サテライトキャンパスは、誰もが自由に立ち入ることができますので、盗難が発生する恐れがあります。
- (2) 自分の持ち物は、どこかに置いたりせずに、自分でしっかりと管理してください。

8. ハラスメント相談

- (1) 上智大学は、公正で安全な学習・生活環境を保証するため、セクシュアル・ハラスメント、アカデミック・ハラスメント、パワー・ハラスメント等の各種ハラスメントの防止に努めています。
- (2) 各種ハラスメント相談の申込みは、電話及びホームページで受け付けています。詳しくは、上智大学公式ホームページを参照してください。

9. 個人情報保護

- (1) 「上智学院個人情報保護方針」を定めるとともに、個人情報の定義、個人情報の収集、利用の制限、安全管理措置を明確化しています。
- (2) 上智学院個人情報保護への取組みについては上智大学公式ホームページを参照してください。
- (3) 個人情報保護に関する相談窓口は、以下のとおりです。

上智学院総務局 TEL 03-3238-3172 FAX 03-3238-3137

【受講料等】

1. 受講料

- (1) グリーフケア人材養成講座の受講料は、以下のとおりです。

	人材養成課程	資格認定課程
1 年目	276,000 円	412,000 円
2 年目	276,000 円	—

- (2) 受講料は、春学期と秋学期の半期ずつ、分割して納入してください。
(3) 秋学期の受講料の納入時期は 10 月中旬です。
(4) 春学期（グリーフケア人材養成課程 2 年次）の納入時期は 4 月中旬です。

2. 修行年限を越えて科目を履修する場合の受講料

- (1) 休学期間を除き、修業年限内に授業科目の単位を修得できずに、再度、当該科目を受講する場合は、当該科目にかかる受講料のみ納入してください。
(2) この場合の受講料は、再度受講する科目によって異なりますので、グリーフケア研究所事務室にお問合せください。

3. 休学した場合の在籍料

- (1) 傷病、仕事、家庭、その他の事情により、長期にわたって授業を欠席しなければならない場合、休学することができます。
(2) 休学する期間は、受講料は不要ですが、年度単位で以下の在籍料を納入してください。
在籍料 20,000 円 （1 学期、1 学年度の休学である場合も同額）

【学 事】

1. 授業期間と学期

- (1) 授業の開始日と終了日は、「【カリキュラム】 3. 年間予定表」(20 頁) のとおりです。
- (2) 授業は、春学期と秋学期に分かれて開講します。
春学期：4 月 1 日～ 9 月 20 日 秋学期：9 月 21 日～ 3 月 31 日
- (3) 授業の回数は、春学期、秋学期とも、水曜日が 15 回、土曜日が 8 回です。

2. 時間割

- (1) 授業は 1 コマ 90 分で、以下の時間割で開講します。

曜 日	時 限	授 業 時 間
水曜日	6 時限	18 : 30 ～ 20 : 00
土曜日	1 時限	9 : 30 ～ 11 : 00
	2 時限	11 : 10 ～ 12 : 40
	3 時限	13 : 30 ～ 15 : 00
	4 時限	15 : 10 ～ 16 : 40
	5 時限	16 : 50 ～ 18 : 20

- (2) 水曜日の授業は、6 時限の 1 コマのみです。
- (3) 土曜日の授業は、1 時限から 5 時限までの 5 コマです。
- (4) 土曜日の 2 時限と 3 時限の間 (12 : 40～13 : 30) は昼休みです。

3. 授業への出席・欠席

- (1) 出席の取扱いについては、各科目のシラバスに記載された「評価」の欄を参照してください。
- (2) 講義科目の欠席の連絡は不要ですが、演習科目や実習科目については欠席の連絡が必要です。詳細については、授業開始前に別途お知らせします。
- (3) グリーフケア人材養成講座に公欠や欠席届の制度はありません。このため、忌引、交通機関の遅延、傷病などによってやむを得ず欠席した場合であっても、出席と見なすことはありません。
- (4) 授業に遅刻して、中途から出席した場合の取扱いについては、各担当教員の判断によります。
- (5) 受講生が学校保健安全法に定められた感染症に罹患した場合は、感染拡大を防ぐために所定の期間、大学への登校が禁止されます。そのような場合には、医師の指示に従い、感染の危険がなくなるまで自宅療養してください。また、グリーフケア研究所事務室に電話またはメールで報告してください。
- (6) 「裁判員の参加する刑事裁判に関する法律」に基づいて、受講生が裁判員に選任された場合（その選任手続を含む）、当該授業を欠席することについて研究所に申し出てください。
- (7) 傷病、仕事、家庭、その他の事情により、長期にわたって授業を欠席しなければならない場合は、グリーフケア研究所事務室に連絡してください。
- (8) 欠席した授業の資料は、後日、入手することが可能です。入手方法等については、授業開始前に別途お知らせします。

4. 休講・補講

- (1) 担当教員が公務、出張、学会、病気等によって授業ができなくなり、授業が休講となる場合があります。
- (2) 台風・大雨などの自然災害や事故などによる交通機関の遅延や停止のため、授業を平常どおり行うことができないと判断された場合は、休講の措置を取ることがあります。
- (3) 事前に休講となることがわかっている場合は、グリーンケア研究所事務室から受講生にメールで連絡します。なお、授業当日に休講が判明した場合は、授業実施直前に連絡することがあります。
- (4) 授業が休講となった場合は、原則として補講を行います。補講の方法、日時、場所等については、グリーンケア研究所事務室から受講生にメールで連絡します。

5. リアクションペーパー

- (1) 対面で行う授業科目では、授業終了時に、リアクションペーパーの提出を求める場合があります。
- (2) リアクションペーパーは、授業に出席した受講生が授業内容をどの程度理解したかを見るための資料であり、成績評価基準の一つとなることもあります。
- (3) リアクションペーパーは、授業当日に提出してください。
- (4) リアクションペーパーは、所定の用紙を使用してください。各自が作成した用紙では受け付けません。
- (5) 水曜日の授業はオンラインのため、リアクションペーパーの代わりに、リアクションメールを提出していただきます。提出方法等については、別途、お知らせします。

6. 試験・レポート

- (1) すべての科目で、学期末試験またはレポートの提出を求めます。
- (2) 筆記試験を実施する場合は、原則として、授業の最終日に実施します。
- (3) レポート提出の場合、課題の内容、提出方法、提出先、締切期日等について、グリーンケア研究所事務室からメールで連絡します。

7. 成績評価

- (1) 成績評価は、担当教員が定める授業方針・成績評価基準によって、出席回数、リアクションペーパーの提出状況と内容、授業参加の状況、学期末試験、提出レポート、その他に基づいて行われます。各授業科目の成績評価基準は、シラバスを参照してください。

- (2) グリーフケア人材養成講座の成績評価基準は次のとおりです。

判定	評価	評点	内容
合格	A	100～90 点	特に優れた成績を示したもの
	B	89～80 点	優れた成績を示したもの
	C	79～70 点	妥当と認められる成績を示したもの
	D	69～60 点	合格と認められるための最低限度の成績を示したもの
認定	P	—	修得単位として認定されたもの
不合格	F	59 点以下	合格と認められるに足る成績を示さなかったもの

8. 成績表の送付

- (1) 春学期の成績表は、9 月中旬に郵送します。
- (2) 秋学期の成績表は、3 月中旬に郵送します。

9. 再履修

- (1) 「不合格」となった授業科目は、再履修して当該授業科目の単位を修得しない限り、修了できません。
- (2) グリーフケア人材養成課程の授業科目は、基本的に 1 年次の春学期から、2 年次の秋学期まで、段階的にカリキュラムが組み立てられているため、1 年次において、単位未修得の授業科目がある場合は、原則として 2 年次の授業科目を履修することができません。このため、まず 1 年次の未修得科目を再履修して単位を修得し、その上で翌年度に 2 年次の授業科目を履修します。
- (3) 単位未修得科目の再履修にあたっては、科目の種類等によって柔軟な対応が可能な場合もあるため、グリーフケア研究所の専任教員と面談して履修計画を相談してください。

10. 講義・演習・実習等の記録および資料等の取り扱いについて

- (1) グリーフケア人材養成講座では、各課程において、演習・実習・個別指導での音声および映像を記録する場合があります。記録は、受講生への教育・指導を目的としていますので、受講生が視聴することはできません。また、音声、映像や、演習・実習で提出した書類は、在籍中、個人情報保護の観点から厳重に管理された場所に保管します。なお、修了した方のこれらのデータは、修了から 6 か月後に全て廃棄します。
- (2) グリーフケア人材養成講座では、各課程において、講義の音声および映像を記録すること、および授業で配付する教材等資料の二次利用は禁止しています。

1 1. グリーフケア人材養成課程の修了

- (1) グリーフケア人材養成課程の修了要件は、次のとおりです。
 - ① グリーフケア人材養成課程に2年間以上在学すること。
 - ② すべての授業科目の単位を修得すること。
- (2) 上記の修了要件を満たした受講生は、同課程の修了生として、「修了証書」及び学校教育法が定める「履修証明プログラム」に基づく「履修証明書」を交付します。

(履修証明書・修了証書のサンプル)

修了証番号 GW1-001 号
履修証明書・修了証書
上智 太郎 殿 1966 年 5 月 20 日生
学校教育法第105条の規定に基づき、本学グリーフケア研究所グリーフケア人材養成講座グリーフケア人材養成課程の所定の単位（30単位）を修め、修了したことを証明します。 人材養成課程の概要 グリーフを抱える個人や共同体が持っている死生観やスピリチュアリティの多様性を前提として、スピリチュアルな課題（スピリチュアルペイン）に直面している悲嘆者に対し、ケア対象者・ケア提供者が共に各自の死生観・スピリチュアリティを十全に生き共存できるケア関係の構築を目指し、深い臨床理解とダイナミックなケア実践ができる人材を養成する。 〇〇〇〇年〇月〇〇日 上智大学長 〇〇〇〇 印

- (3) グリーフケア人材養成課程の修了要件を満たした上で、以下に掲げる要件を満たした受講生は、上智大学が付与する「臨床傾聴士」の資格を認定します。
 - ① 身体的・精神的・社会的な健康と有機的関連を持つスピリチュアルな健康について、知的・情緒的・実践的に理解することができること。
 - ② 自身の中で働き、また将来を導くスピリチュアリティの力動とその背景を、自分自身の課題として理解し、それに継続して取り組む準備ができていること。
 - ③ 宗教並びにスピリチュアリティの公共的役割について理解していること。
 - ④ 現代社会のさまざまな宗教・思想・伝統について共感的かつ批判的に理解していること。
 - ⑤ 自らのスピリチュアリティをケアの素材として提供しつつ、ケア対象者のスピリチュアリティの涵養を目指す基本的な活動をすることができること。
- (4) 上記(3)に定める要件を満たしているかどうかについては、グリーフケア人材養成課程の修了前に行われる「総合審査」において判定します。
- (5) 臨床傾聴士の資格を付与されるためには、上記(4)の「総合審査」に合格した後、「臨床傾聴士倫理講習会」を受講する必要があります。

12. 資格認定課程の修了

- (1) 資格認定課程の修了要件は、次のとおりです。
 - ① 資格認定課程に1年間以上在学すること。
 - ② すべての授業科目の単位を修得すること。
- (2) 上記の修了要件を満たした受講生は、同課程の修了生として、「修了証書」及び学校教育法が定める「履修証明プログラム」に基づく「履修証明書」を交付します。

(履修証明書・修了証書のサンプル)

修了証番号 GW2-001 号
履修証明書・修了証書
上智 太郎 殿 1966 年 5 月 20 日生
学校教育法第105条の規定に基づき、本学グリーフケア研究所グリーフケア人材養成講座資格認定課程の所定の単位（18単位）を修め、修了したことを証明します。 資格認定課程の概要 グリーフを抱える個人や共同体が持っている死生観やスピリチュアリティの多様性を前提として、スピリチュアルな課題（スピリチュアルペイン）に直面している悲嘆者に対し、ケア対象者・ケア提供者が共に各自の死生観・スピリチュアリティを十全に生き共存できるケア関係の構築を目指し、深い臨床理解とダイナミックなケア実践ができるとともに、ケア提供者としての課題に継続して取り組む人材を養成する。 〇〇〇〇年〇月〇〇日 上智大学長 〇〇〇〇 印

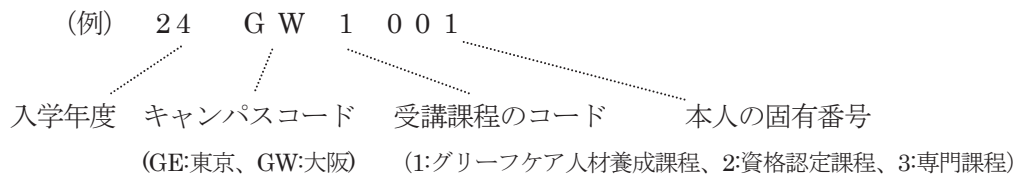
- (3) 資格認定課程の修了要件を満たした上で、以下に掲げる要件を満たした受講生は、日本スピリチュアルケア学会が認定する「臨床スピリチュアルケア師」の資格審査への受験資格を付与します。
 - ① 身体的・精神的・社会的な健康と有機的関連を持つスピリチュアルな健康について、知的・情緒的・実践的に理解することができること。
 - ② 自身の中で働き、また将来を導くスピリチュアリティの力動とその背景を、自分自身の課題として理解し、それに継続して取り組む準備ができていること。
 - ③ 宗教並びにスピリチュアリティの公共的役割について理解していること。
 - ④ 現代社会のさまざまな宗教・思想・伝統について共感的かつ批判的に理解していること。
 - ⑤ 自らのスピリチュアリティをケアの素材として提供しつつ、ケア対象者のスピリチュアリティの涵養を目指す基本的な活動をすることができること。
- (4) 上記(3)に定める要件を満たしているかどうかについては、資格認定課程の修了前に行われる「総合審査」において判定します。

【学籍】

1. 受講生番号

受講生番号は、入学すると各人に固有の受講生番号が付与されます。授業の受講、さまざまな連絡や手続などの際、受講生番号が必要ですので、正確に記憶してください。

(受講生番号の読み方)



2. 受講生証

- (1) 入学の際、「受講生証」をお渡しします。
- (2) 受講生証は、上智大学において、グリーンケア人材養成講座の受講生であることを証明するものです。このためサテライトキャンパス構内で教職員等から求められた際、提示しなければなりません。また、図書館の入館の際にも必要です。
- (3) グリーンケア人材養成講座を修了した場合、あるいは退学により学籍を失った場合は、受講生証をグリーンケア研究所事務室に返却してください。
- (4) 受講生証を紛失した場合は再発行しますので、グリーンケア研究所事務室まで連絡してください。
- (5) 受講生証の記載事項に変更が生じた場合は、グリーンケア研究所事務室に申し出てください。

3. 在学

【グリーンケア人材養成課程】

- (1) 受講生が授業を受講して単位を修得する期間を、「在学」の期間と言います。グリーンケア人材養成課程の標準修業年限は2年ですので、受講生は、最低2年間は「在学」します。
- (2) 単位未修得により、授業科目を再履修する場合、この「在学」の期間が2年間を超えることになりますが、本課程で「在学」することのできる期間は、休学期間を除き最長4年間です。
- (3) 最長4年間の「在学」の期間で、所定の単位が修得できない場合は退学となります。

【資格認定課程】

- (1) 受講生が授業を受講して単位を修得する期間を、「在学」の期間と言います。資格認定課程及び専門課程の標準修業年限は1年ですので、受講生は、最低1年間は「在学」します。
- (2) 単位未修得により、授業科目を再履修する場合、この「在学」の期間が1年間を超えることになりますが、本課程で「在学」することのできる期間は、休学期間を除き最長2年間です。
- (3) 最長2年間の「在学」の期間で、所定の単位が修得できない場合は退学となります。

4. 休学

【グリーフケア人材養成課程】

- (1) 休学とは、グリーフケア人材養成課程の受講生としての学籍を有したままで、一定の期間、授業を受講しないことを指します。たとえば、傷病、仕事、家庭、その他の事情により、長期にわたって授業を欠席しなければならない場合などが該当します。
- (2) 休学の期間は、春学期または秋学期の1学期、または1年度を単位とします。1学期よりも短い期間での休学はできません。
- (3) 休学することのできる期間は、連続あるいは通算して、合計2年間です。
- (4) 最長2年間の休学期間を満了しても、在学して授業を受講することができない場合は退学となります。
- (5) 休学しようとする場合は、必ず事前にグリーフケア研究所の専任教員と面談して、グリーフケア研究所事務室に「休学願」を提出してください。
- (6) 休学期間中は、受講料は不要です。ただし、所定の在籍料を納入してください。

【資格認定課程】

- (1) 休学とは、資格認定課程の受講生としての学籍を有したままで、一定の期間、授業を受講しないことを指します。たとえば、傷病、仕事、家庭、その他の事情により、長期にわたって授業を欠席しなければならない場合などが該当します。
- (2) 休学の期間は、春学期または秋学期の1学期、または1年度を単位とします。1学期よりも短い期間での休学はできません。
- (3) 休学することのできる期間は、連続あるいは通算して、合計1年間です。
- (4) 最長1年間の休学期間を満了しても、在学して授業を受講することができない場合は退学となります。
- (5) 休学しようとする場合は、必ず事前にグリーフケア研究所の専任教員と面談して、グリーフケア研究所事務室に「休学願」を提出してください。
- (6) 休学期間中は、受講料は不要です。ただし、所定の在籍料を納入してください。

5. 復学

休学期間が満了したとき、または、1年度の休学を1学期で切り上げて在学して授業を受講しようとするときは、所定の「復学届」を、グリーフケア研究所事務室に提出してください。

6. 退学

- (1) 退学には、受講生が自主的に退学する場合と、退学を命ぜられる場合の2つがあります。
- (2) 受講生が自らの意思で退学する場合は、所定の「退学願」に必要事項を記入の上、グリーフケア研究所事務室に提出してください。
- (3) 傷病、仕事、家庭、その他の事情により、やむを得ず退学しようとする場合は、事前にグリーフケア研究所の専任教員と面談するようにしてください。
- (4) 受講生が以下のいずれかの事項に該当する場合、退学となります。

【グリーンケア人材養成課程】

- ① 在学期間が4年を経過したにもかかわらず、課程の修了要件を満たさないとき
- ② 通算した休学期間が2年を経過したにもかかわらず、復学できないとき
- ③ 受講料を納付せず、かつ督促をしても納入しないとき
- ④ 上智大学の秩序を乱したとき、または、上智大学の名誉を著しく毀損したとき
- ⑤ 上智大学グリーンケア研究所の授業その他の運営を乱したとき
- ⑥ 受講生の受け入れの方針（アドミッション・ポリシー）にそぐわず、同課程を受講することが不適当と認められたとき
- ⑦ 出願書類及び入学手続書類に虚偽を記載し、グリーンケア人材養成課程の出願資格に合致しないことが明らかとなったとき

【資格認定課程】

- ① 在学期間が2年を経過したにもかかわらず、課程の修了要件を満たさないとき
- ② 通算した休学期間が1年を経過したにもかかわらず、復学できないとき
- ③ 受講料を納付せず、かつ督促をしても納入しないとき
- ④ 上智大学の秩序を乱したとき、または、上智大学の名誉を著しく毀損したとき
- ⑤ 上智大学グリーンケア研究所の授業その他の運営を乱したとき
- ⑥ 受講生の受け入れの方針（アドミッション・ポリシー）にそぐわず、同課程を受講することが不適当と認められたとき
- ⑦ 出願書類及び入学手続書類に虚偽を記載し、資格認定課程の出願資格に合致しないことが明らかとなったとき

7. 再入学

- (1) グリーンケア人材養成講座の各課程を退学した者のうち、上記6.の(2)に定める自主的に退学した者、または、上記6.の(4)の②及び③のいずれかの事由により退学した者は、願い出により、再入学を認めることがあります。
- (2) 再入学を希望する場合は、希望する年度の前年12月までに、グリーンケア研究所事務室に相談してください。

8. 身上情報の変更

- (1) 氏名、住所、電話番号、電子メールアドレス、職業、緊急連絡先、その他身上に変更があった場合は、所定の様式にて、すみやかにグリーンケア研究所事務室に届け出てください。
- (2) 住所や電子メールアドレスの変更の届出が無い場合、グリーンケア研究所からの連絡が届かないことになり、受講生に不利益が生じることとなります。

【カリキュラム・時間割】

1. グリーフケア人材養成課程

学年	開講期	曜日	時間	科目名	単位数
1 年次	春	水曜日	18 : 30 ~ 20 : 00	グリーフケア原論	2
		土曜日	9 : 30 ~ 11 : 00	宗教学	2
			11 : 10 ~ 12 : 40		
			13 : 30 ~ 15 : 00	基礎演習	2
			15 : 10 ~ 16 : 40		
			16 : 50 ~ 18 : 20	個別指導 I	1
	秋	水曜日	18 : 30 ~ 20 : 00	キリスト教人間学	2
		土曜日	9 : 30 ~ 11 : 00	スピリチュアルケアと芸術	2
			11 : 10 ~ 12 : 40		
			13 : 30 ~ 15 : 00	グリーフケア援助演習 I	2
			15 : 10 ~ 16 : 40		
			16 : 50 ~ 18 : 20	個別指導 II	1
	通年	不定期	—	グリーフケア臨床訪問実習 I	1
2 年次	春	水曜日	18 : 30 ~ 20 : 00	グリーフケア援助論	2
		土曜日	9 : 30 ~ 11 : 00	グリーフケア援助演習 II	2
			11 : 10 ~ 12 : 40		
			13 : 30 ~ 15 : 00	臨床倫理	2
			15 : 10 ~ 16 : 40		
			16 : 50 ~ 18 : 20	個別指導 III	1
	秋	水曜日	18 : 30 ~ 20 : 00	スピリチュアルケア原論	2
		土曜日	9 : 30 ~ 11 : 00	総合演習	2
			11 : 10 ~ 12 : 40		
			13 : 30 ~ 15 : 00	死生学	2
			15 : 10 ~ 16 : 40		
			16 : 50 ~ 18 : 20	個別指導 IV	1
	通年	不定期	—	グリーフケア臨床訪問実習 II	1
合計修得単位数					30

※ 「グリーフケア臨床訪問実習 I」および「グリーフケア臨床訪問実習 II」は、1 年間に 3～4 回程度、少人数のグループに分かれて遺族会や患者会等を訪問し、実際にグリーフケアの現場を体験するもので、実習前の「事前指導」と、実習後の「振り返り」を受講することが必要です。この実習にあたっては、可能な限り受講生と実習先のスケジュールを調整しますが、平日の日中に時間を空けることが必要な場合があります。

2. 資格認定課程

開講期	曜日	時間	科目名	単位数
春	水曜日	18：30 ～ 20：00	精神医学・精神保健	2
	土曜日	9：30 ～ 11：00	実習スーパービジョンⅠ	2
		11：10 ～ 12：40		
		13：30 ～ 15：00	文献講読Ⅰ	各 1
		15：10 ～ 16：40	ソーシャルワークとグリーフケア	
		16：50 ～ 18：20	個別指導Ⅴ	1
秋	水曜日	18：30 ～ 20：00	先端医療・緩和医療	2
	土曜日	9：30 ～ 11：00	実習スーパービジョンⅡ	2
		11：10 ～ 12：40		
		13：30 ～ 15：00	文献講読Ⅱ	各 1
		15：10 ～ 16：40	臨床心理とグリーフケア	
		16：50 ～ 18：20	個別指導Ⅵ	1
集中	—	集中臨床実習・演習Ⅰ	2	
		集中臨床実習・演習Ⅱ	2	
通年	—	通年実習	—	
合計修得単位数				18

- ※ 土曜日・春学期の「文献講読Ⅰ」と「ソーシャルワークとグリーフケア」、土曜日・秋学期の「文献講読Ⅱ」と「臨床心理とグリーフケア」は、原則として月1回交代で開講します。
詳細は、シラバスを参照してください。
- ※ 「集中臨床実習・演習Ⅰ」と「集中臨床実習・演習Ⅱ」では、2024年8月～9月と2025年1月～2月に、医療機関及び福祉施設において、1週間の集中実習を行います。
- ※ 通年実習は、受講生自身が自身が選んだ臨床現場において、年間80～100時間の実習を行い、教員の指導の下に実習報告としての会話記録を検討するものです。
- ※ 日本スピリチュアルケア学会が認定する「臨床スピリチュアルケア師」の資格審査の受験資格を得るためには、このカリキュラム・時間割の科目を履修し、すべての単位を修得するとともに、秋学期に実施する総合審査に合格することが必要です。

3. 年間予定表【教務日程】

各月のカレンダーの日付に、○数字の付いている日が、グリーンケア人材養成講座の開講日です。
春・秋の各学期に水曜日は15回、土曜日は8回開講します。

2024年4月1日～9月20日（春学期）

2024 年 4 月

日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13 ①
14	15	16	17 ①	18	19	20
21	22	23	24 ②	25	26	27 ②
28	29	30				

開講式 4月13日(土)
※開講式終了後、第1回目の土曜日の授業を行います。

※春学期水曜日の初回授業は4/17(水)です。

2024 年 5 月

日	月	火	水	木	金	土
			1 ③	2	3 憲法 記念日	4 みどりの日
5 こどもの日	6 振替休日	7	8 ④	9	10	11 ③
12	13	14	15 ⑤	16	17	18
19	20	21	22 ⑥	23	24	25 ④
26	27	28	29 ⑦	30	31	

2024 年 6 月

日	月	火	水	木	金	土
						1
2	3	4	5 ⑧	6	7	8 ⑤
9	10	11	12 ⑨	13	14	15
16	17	18	19 ⑩	20	21	22 ⑥
23	24	25	26 ⑪	27	28	29
30						

2024 年 7 月

日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3 ⑫	4	5	6
7	8	9	10 ⑬	11	12	13 ⑦
14	15 海の日	16	17 ⑭	18	19	20
21	22	23	24 ⑮	25	26	27 ⑧
28	29	30	31			

【春学期のレポートについて】

7月27日(土)の最終授業終了後に、レポート課題・提出方法等をお知らせします。

★レポートの提出期限は、8月9日(金)です。

2024 年 8 月

日	月	火	水	木	金	土
				1	2	3
4	5	6	7	8	9 ★	10
11 山の日	12 振替休日	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	31

★春学期レポート提出期限 8月9日(金)

2024 年 9 月

日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7 ★
8	9	10	11	12	13 ★	14
15	16 敬老の日	17	18	19	20	

★実践研究発表会 9月7日(土)

★春学期成績表郵送 9月13日(金)

2024年9月21日～2025年3月31日（秋学期）

日	月	火	水	木	金	土
						21
22 秋分の日	23 振替休日	24	25 ①	26	27	28 ①
29	30					

2024 年 10 月

日	月	火	水	木	金	土
		1	2 ②	3	4	5
6 スポーツの日	7	8	9 ③	10	11	12 ②
13	14	15	16 ④	17	18	19
20	21	22	23 ⑤	24	25	26 ③
27	28	29	30 ⑥			

2024 年 11 月

日	月	火	水	木	金	土
					1 創立記念日	2 振替休日
3 文化の日	4 振替休日	5	6 ⑦	7	8	9 ④
10	11	12	13 ⑧	14	15	16
17	18	19	20 ⑨	21	22	23 ⑤ 勤労感謝の日
24	25	26	27 ⑩	28	29	30

★11/23(土)は祝日ですが、授業を行います。

2024 年 12 月

日	月	火	水	木	金	土
1	2	3 ザビエル祭	4 ⑪	5	6	7
8	9	10	11 ⑫	12	13	14 ⑥
15	16	17	18 ⑬	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30	31				

2025 年 1 月

日	月	火	水	木	金	土
			1 元日	2	3	4
5	6	7	8 ⑭	9	10	11 ⑦
12	13 成人の日	14	15 ⑮	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25 ⑧
26	27	28	29	30	31	

【秋学期のレポートについて】

1月25日(土)の最終授業終了後に、レポート課題・提出方法等をお知らせします。

★レポートの提出期限は、2月7日(金)です。

2025 年 2 月

日	月	火	水	木	金	土
						1
2	3	4	5	6	7 ★	8
9	10	11 建国記念日	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23 天皇誕生日	24 振替休日	25	26	27	28	

★秋学期レポート提出期限 2月7日(金)

2025 年 3 月

日	月	火	水	木	金	土
						1 ★
2	3	4	5	6	7 ★	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19 ★	20 春分の日	21	22 ★
23	24	25	26	27	28	29
30	31					

★実践研究発表会 3月1日(土)

★修了式の案内および秋学期の成績郵送(修了者宛) 3月7日(金)

★修了式 3月22日(土)

★2025年度春学期の案内および秋学期の成績郵送(人材新2年生宛) 3月19日(水)

2024 年度 シラバス

※シラバスに記載されている内容は変更の可能性があります。

2024年度 人材養成課程の演習科目で共通して取り組むこと

1年目	人材1年 春学期	「基礎演習」
	人材1年 秋学期	「グリーフケア援助演習Ⅰ」
2年目	人材2年 春学期	「グリーフケア援助演習Ⅱ」
	人材2年 秋学期	「総合演習」

グリーフケア人材養成課程では、4学期間にわたる演習4科目を通して、価値観、信仰・信念、経験の異なる方々の物語を、自己の価値観との違いを尊重しつつ、確かめ、傾聴します。その取り組みを通して、受講者同士の信頼感を醸成し、安心して語りうる、ケアの共同体をつくっていきます。いっぽう、自己の人生にとって重要な価値観や信仰・信念や経験も、大切に確かめていきます。

このようにして、価値観や信仰・信念の揺らぎに直面している方々のそばにいて支援する、スピリチュアルケアを学びます。

この学びは、人材養成講座修了後の諸課程でもずっと継続されます。

【演習科目を通しての学び】

1. 傾聴する道具でもある自分自身を知ることの重要性を確認する。
2. しっかりと傾聴される体験を通して、傾聴することを学ぶ。
3. 演習科目を通して、以下の5領域の習得と向上を目指す。
 - 1) 自己理解
等「心」大の自己を理解し、自己の個性や課題を、ケアに生かすことができる。
 - 2) 他者理解
他者の心の動きを共感的に感じ取り、他者とありのままに向き合うことができる。
 - 3) 関係力・共感力
他者と適切な信頼関係を築き、その関係性のあり方を敏感に感じることができる。
 - 4) 概念化力・表現力
ケア現場で生じることの意味を了解し、適切に他者に表現することができる。
 - 5) 臨床倫理実践力
ケア場面で、人権意識をもった倫理的配慮ができる。

【演習科目の中で、「いま、ここ」の自分を観察する作業】

〔授業前〕

インベントリ(精神／身体／社会／スピリチュアルの四側面から、「いま、ここ」の自身を書き留める)・・・各自保管

〔終了時〕

チェックアウト(演習終了を前に「いま、ここ」の自分を言葉にする)

〔授業後〕

リフレクション(演習科目を終え「いま、ここ」の自分を書き留める)・・・各自提出

【演習科目を通しての約束事】

演習科目では、実践と体験を重視する。他の受講者から学び、他の受講者の学びの素材としても自身を提供する。このため、出席と、相互の敬意・相互の信頼がきわめて重視される。グループ内の出来事は、グループ終了後には話題にせず、グループの外では話さない、という守秘義務の遵守が求められる。

課程	グリーフケア人材養成課程		
科目名	グリーフケア原論		
開講年度・学期	2024年度 春学期		
履修年次	1年次		
開講曜日・時限	水曜日 6時限		
単位数	2単位		
担当教員	葛西賢太(コーディネーター)、伊藤高章、栗原幸江、大村哲夫、山岡三治		
講義概要	上智大学グリーフケア研究所人材養成講座での学びの基礎を形成する入門科目。 当研究所は、グリーフ(悲嘆)を死別に伴う心的過程に限定せず、人生に不可避な様々な喪失体験に伴う心の反応とケアの対象と考えている。したがって、グリーフケアは、人生の危機に直面した人間性への総合的なケアである。また、グリーフは、人間のスピリチュアリティの最も根源的な表現でもあり、グリーフケアはスピリチュアルケアの基礎である。 この講義では、グリーフケアとは何かについて全体像を学ぶとともに、ケア提供者の姿勢についての理解を深める。特に、精神医学的・心理学的な援助にくわえて、思想・宗教・伝統・文化の歴史性・多様性に注目しつつ行われるグリーフケアの背景と、その実践的、理論的理解を図る。 適宜、ディスカッションの時間を設け、社会人受講生の経験を分かちあい、授業内容の深化を図るとともに、学びの内容がそれぞれの現場にどのような意味を持っているかを検討する。		
授業目標	1) 上智大学グリーフケア研究所人材養成講座での学びの焦点と受講生に求められる能力について理解する。 2) グリーフケアの全体像とケアの特徴を理解する。 3) グリーフケアとスピリチュアルケアの関係を理解する。 4) グリーフケア、スピリチュアルケアにおけるケア提供者の姿勢について理解し、実践力の基礎を養う。		
評価	学期末レポート		
授業計画	授業日程	担当	内容
	第1回 (4/17)	葛西	イントロダクション、グリーフケアの位置づけ(1)
	第2回 (4/24)	葛西	グリーフケアの位置づけ(2)
	第3回 (5/1)	葛西	グリーフケアの位置づけ(3)
	第4回 (5/8)	葛西	グリーフケアの位置づけ(4)
	第5回 (5/15)	葛西	グリーフケアの位置づけ(5)
	第6回 (5/22)	伊藤	グリーフケアの理論(1)
	第7回 (5/29)	伊藤	グリーフケアの理論(2)
	第8回 (6/5)	伊藤	グリーフケアの理論(3)
	第9回 (6/12)	栗原	グリーフケアの実践(1)
	第10回 (6/19)	栗原	グリーフケアの実践(2)
	第11回 (6/26)	栗原	グリーフケアの実践(3)
	第12回 (7/3)	大村	グリーフケアのこころみ(1)
	第13回 (7/10)	大村	グリーフケアのこころみ(2)
	第14回 (7/17)	大村	グリーフケアのこころみ(3)
	第15回 (7/24)	山岡	グリーフケアと葬祭
教科書・参考書	参考書: 『増補版 悲嘆学入門』(坂口幸弘)昭和堂 ISBN: 978-4-812-22127-3 『ともに悲嘆を生きる』(島園進)朝日新聞出版 ISBN:978-4-022-63082-7 『グリーフケア入門』(高木慶子 編)勁草書房 ISBN:978-4-326-29900-3 『死ぬ瞬間ー死とその過程について』(E・キューブラー・ロス)中公文庫 ISBN:4-12-203766-2		

課程	グリーフケア人材養成課程		
科目名	宗教学		
開講年度・学期	2024年度 春学期		
履修年次	1年次		
開講曜日・時限	土曜日 1・2時限		
単位数	2単位		
担当教員	西平直(コーディネーター)、森清顕、村川治彦		
講義概要	神道や仏教や現代の宗教など、諸宗教や日本人の死生観を学び、これらを参考にして死生観への理解を深め、ケアとの関係などを理解する。		
授業目標	宗教と日本の文化についての理解を深め、ケアとの関係を学ぶ。		
評価	学期末レポート		
授業計画	回	担当	内容
	第1回 (4/13)	西平	宗教心理－ライフサイクルと宗教経験
	第2回 (4/27)	西平	人格の成熟－無心と自己無化
	第3回 (5/11)	村川	今日の宗教の諸相
	第4回 (5/25)	村川	死の経験における宗教と科学の対話
	第5回 (6/8)	森	仏教の歴史と日本仏教の特色および日本仏教の死生観
	第6回 (6/22)	森	日本中世の浄土仏教・禅仏教・法華仏教の展開
	第7回 (7/13)	西平	スピリチュアリティの四つの局面
	第8回 (7/27)	西平	修行と稽古
参考書	参考書：脇本平也『宗教学入門』講談社学術文庫、2010年。ISBN:978-4-06159-294-0 鎌田東二編著『講座スピリチュアル学(第1巻)スピリチュアルケア』～『講座スピリチュアル学(第7巻)スピリチュアリティと宗教』ビーイング・ネット・プレス、2014年-2016年。ISBN:978-4-90805-501-0～ISBN:978-4-90805-507-2		

課程	グリーフケア人材養成課程		
科目名	基礎演習		
開講年度・学期	2024年度 春学期		
開講曜日・時限	土曜日 3・4時限		
単位数	2単位		
担当教員	栗原幸江、大村哲夫		
講義概要	第1学期「基礎演習」では、「人間という生きた教科書」であり支えを提供してくれる同級生との相互信頼を築く。 ケアを提供する自分自身のあり方は、ケアに大きな影響を及ぼすので、自分自身を知ることは重要である。だが、現代人、しばしばケア専門職は、自分自身の感情を抑圧することを身につけてしまっており、自分自身の感情を語ることが不得手になってしまっている。感情を語るのはどのような体験かを知らない者が、他者に感情の語りを求めることは、バランスを欠いていると私たちは考える。そのため、基礎演習では、傾聴の理論的・技術的講義とあわせ、自分自身の感情を言葉にする訓練を行う。 特に、授業目標に挙げた三つに焦点を当て、能動的で相互的な学習活動を行う。 言語のみでなく身体感覚を活用するための学びを適宜実施する。 【演習科目を通しての約束事】 演習科目では、実践と体験を重視する。他の受講者から学び、他の受講者の学びの素材としても自身を提供する。このため、出席と相互の敬意、相互の信頼がきわめて重視される。グループ内の出来事は、グループ終了後には話題にせず、グループの外では話さない、という守秘義務の遵守が求められる。		
授業目標	グループワークを開始し、自身を開きながら聴く姿勢に挑戦する。 1)【自己理解と自己の影響】自己の感情の動きや価値観等の効果・影響について体験的に理解しよう。 2)【場に関わる】安心安全な場を意識し、フィードバックに挑戦しよう。 3)【ケアの多様性】傾聴における「支持・明確化・対峙」を学ぼう。		
評価	演習科目では、全回出席しロールプレイやグループワークに貢献することが重要である。特別な事情なしに3回以上欠席したものには原則として単位を与えない。 上記目標の各項目の達成度、出席、ロールプレイやグループワーク実践を総合的に判断して評価する。		
授業計画	授業日程	担当	内容
	第1回 (4/13)	栗原、大村	オリエンテーション(講師・チューター紹介、学習目標・評価基準説明(シラバス確認)、2年間の予定、演習前後のふりかえり課題説明、毎回行うワークの紹介、テキスト紹介、守秘義務確認、受講生自己紹介
	第2回 (4/27)	栗原、大村	「語る」「聴く」にそなえ心身をととのえる、互いを知る(1)
	第3回 (5/11)	栗原、大村	「語る」「聴く」にそなえ心身をととのえる、互いを知る(2)
	第4回 (5/25)	栗原、大村	セルフケア
	第5回 (6/8)	栗原、大村	「語る」「聴く」を味わう(心身の感覚を意識しつつ)(1)
	第6回 (6/22)	栗原、大村	「語る」「聴く」を味わう(心身の感覚を意識しつつ)(2)
	第7回 (7/13)	栗原、大村	ケアの記録について学ぶ、「スピリチュアルケア師倫理綱領」講義
	第8回 (7/27)	栗原、大村	春学期振り返り、夏休みの宿題「私はこういう人です」オリエンテーション
参考書	参考書：瀧口・大村・和田編『共に生きるスピリチュアルケア——医療・看護から宗教まで』創元社、2021年。ISBN:978-4-422-11773-7 『Compassion(コンパッション)——状況にのみこまれずに、本当に必要な変容を導く、「共にいる」力』(ジョアン・ハリファックス) 英治出版、2020年。ISBN:978-4862762764		

課程	グリーフケア人材養成課程		
科目名	個別指導 I		
開講年度・学期	2024年度 春学期		
開講曜日・時限	不定期 (※日程は後日連絡)		
単位数	1単位		
担当教員	栗原幸江、大村哲夫		
講義概要	「個別指導」では、傾聴者にとって不可欠な〈セルフ・リフレクション：自己の内部に働く力動を理解する力〉ならびに〈セルフケア〉を学ぶことに重点が置かれる。自分自身の課題や成長目標を意識しつつ現実の自分をもケアしてゆく姿勢を養う。ただし、治療などを旨とするセラピーセッションではないので、担当教員が継続的にケアを行うことは想定していない。 毎回の演習後の「リフレクション」、グループチューターによるサポートを踏まえて、学期中に2回教員との個人面談を行う。 例えば以下のような課題が予想される。 ・現実の日常生活に、この学びをどのように位置づけるか。 ・学んだことを、ケア現場にどのように活かすのか。 ・学習を通し明確化されゆく自己の価値観や優先順位を、人生の中でどう大切にしていけるか。 ・演習で感じる価値観や諸前提の多様性や他者との違いを、どう受けとめ大切にしていけるか。 ・座学でも一対一でもなく、グループワークならではの学びを、どのように深めていくか。 ・これまでのケア経験や自身の専門性と、上智での学びを、どう統合するか。		
授業目標	セルフケアを大切にする姿勢を養いつつ、傾聴者をめざす自身の課題を整理する。		
評価	出席による。		
授業計画	回	担当	内容
	春学期中	栗原、大村	個人指導 ※日程は後日連絡
参考書			

課程	グリーフケア人材養成課程		
科目名	キリスト教人間学		
開講年度・学期	2024年度 秋学期		
履修年次	1年次		
開講曜日・時限	水曜日 6時限		
担当教員	寺尾寿芳（コーディネーター）、西平直（コーディネーター）、山岡三治、鈴木伸国、原敬子、酒井陽介、佐藤啓介、大柴譲治		
講義概要	上智大学の教育理念を伝える科目。 特に、グリーフケア研究所の講義科目としてのキリスト教人間学では、キリスト教のスピリチュアリティと、その様々な展開また歴史社会とのかかわりについて理解を深める。そこから近代的人間の特徴と課題を明確化すると共に、そこに求められるスピリチュアルケアを考察する。 本講義は特にキリスト教の理論と実際という両側面に焦点を当てた内容で構成されている。つまり、キリスト教という宗教に内包される抽象的、論理的思考方法を踏まえたうえで、多様なかたちで人の現実と関係し、人の癒しと救済を志向しているかが概観される。まずはキリスト教理解の基礎にある聖書の知識を学び、続いてキリスト教の人間理解を哲学や心理学との接点から理解する。最後に宗教文化の諸事象と交叉する形で、キリスト教の人間観が示す展開可能性を探究する。なお、諸宗教のスピリチュアリティの詳細については、講義科目「宗教学」「死生学」において言及する。		
授業目標	1) 上智大学で学ぶものとして、キリスト教の人間観を理解する。 2) キリスト教が西欧の文化・学問・思想に与えた影響について理解する。 3) キリスト教のスピリチュアリティが養うケアの本質についての議論を理解する。		
評価	学期末レポート		
授業計画		担当	内容
	第1回 (9/25)	西平	なぜ神は助けないのか ―神義論から学ぶこと
	第2回 (10/2)	大柴	胃がビクビク動く?! ～ CPEで学んだこと＝「はらわた」で聴くということ
	第3回 (10/9)	大柴	逐語会話記録 (Verbatim) の検討～ナウエン『傷ついた癒し人』より
	第4回 (10/16)	原	神学的リフレクション (1) ―いのちを神との関係でみる方法
	第5回 (10/23)	原	神学的リフレクション (2) ―わたしと神との関係でみる人生
	第6回 (10/30)	鈴木	キリスト教の哲学的人間観(1) 「たましい」について
	第7回 (11/6)	鈴木	キリスト教の哲学的人間観(2) 「ペルソナ」について
	第8回 (11/13)	酒井	キリスト教の霊性 (1) キリスト教における霊性とは
	第9回 (11/20)	酒井	キリスト教の霊性 (2) 現代の霊性の紹介
	第10回 (11/27)	佐藤	キリスト教における生と死――死と悲しみをめぐって
	第11回 (12/4)	佐藤	キリスト教における生命観――尊厳死と自死を中心に
	第12回 (12/11)	寺尾	祈る――この世を生きる人間 (1)
	第13回 (12/18)	寺尾	坐る――この世を生きる人間 (2)
	第14回 (1/8)	寺尾	集う――この世を生きる人間 (3)
	第15回 (1/15)	山岡	キリスト教の儀礼 (サクラメント・秘跡) の人間学的な意味
参考書	『カトリック教会の教え』（日本カトリック司教協議会）カトリック中央協議会、2003年ISBN:978-4-87750-106-8 『イエスとその福音』（岩島忠彦）教友社、2005年 ISBN : 978-4-90221-113-9 『ラウダート・シ とともに暮らす家を大切に』（教皇フランシスコ）カトリック中央協議会、2016年 ISBN : 978-4-87750-199-0		

課程	グリーフケア人材養成課程		
科目名	スピリチュアルケアと芸術		
開講年度・学期	2024年度 秋学期		
履修年次	1年次		
開講曜日・時限	土曜日 1・2時限		
単位数	2単位		
担当教員	里村生英（コーディネーター）、岡下晶子、若麻積敏隆、大柴賢珠、芳賀孝子、田中あづ紀、勝田恭子		
講義概要	本講義では、芸術（アート）をケアのための技として捉える立場にまず立ち、アートの実践及びその場で起こること（経験内容）に焦点をあてて、芸術、スピリチュアル、ケアの関係について探究していく。各回、色彩と音・響きの分野で実作者あるいはケア従事者として活躍しているアーティストを招き、彼らの具体的取り組みや創作、その理論的背景を提示してもらい、アクティビティも交えながら、芸術とスピリチュアルケアとの関係を理論的、実践的かつ具体的に考察する。		
授業目標	①芸術（アート）をスピリチュアルケアへとつなげていく応用のありようを学び考える。 ②ケアの技法としてアートを捉えるあり方とその具体的な事例の理解、考察及びアクティビティを通して、スピリチュアリティと芸術的想像力・創造力・ケア力について理解を深め、自らの実践への応用の手がかりを掴む。		
評価	出席とレポート		
授業計画	授業日程	担当	内容
	第1回 (9/28)	里村	①総論：芸術とスピリチュアルとケア～人間存在の根本と生きる技術・癒しの技法～②各論：スピリチュアルケアとミュージック・サナトリロジー（その1）
	第2回 (10/12)	芳賀	地蔵画を介したグリーフケア（芳賀孝子＋里村生英）
	第3回 (10/26)	岡下	スピリチュアルケアと音楽療法（岡下晶子＋里村生英）
	第4回 (11/9)	大柴	花を活ける、花に生かされる～臨床現場での体験と共に～（大柴賢珠＋里村生英）
	第5回 (11/23)	若麻積	祈りの美術・いのちの美術 ～宗教と自然～（若麻積敏隆＋里村生英）
	第6回 (12/14)	田中	スピリチュアルケアと色彩～心を癒やす色から、一歩踏み出す色へ～（田中あづ紀＋里村生英）
	第7回 (1/11)	勝田	スピリチュアルケアと音楽～響きを聴くこと、感じるものがもたらすもの～（勝田恭子＋里村生英）
	第8回 (1/25)	里村	①スピリチュアルケアとミュージック・サナトリロジー（その2）②総括：スピリチュアルケアと芸術～スピリチュアルケアが“立ち現れる”ための道・要件・努力とは？
参考書	・鎌田東二編著『講座スピリチュアル学（第6巻）スピリチュアリティと芸術・芸能』ビーイング・ネット・プレス、2016 ISBN：978-4-908055-06-5 ・鎌田東二「スピリチュアルケアと芸術」『グリーフケア研究』第10号、グリーフケア研究、2022 ・里村生英『ミュージック・サナトリロジー：やわらかなスピリチュアルケア』春秋社、2021 ISBN：978-4393935231 ・デボラ・サーモン著/生野里花翻訳『歌の翼に 緩和ケアの音楽療法』春秋社、2004 ISBN：978-4393970133 ・若麻積敏隆『パステルで描く やすらぎの山河』（画集）日貿出版社、2002 ISBN：978-4817032478 ・佐藤文子、若麻積敏隆 他監修『東日本大震災 陸前高田 五百羅漢の記録 -こころは出口をさがしていた-』星和書店、2021 ISBN：978-479110714 ・田中あづ紀著/Terry M. Boardman翻訳『いのちはばたく A new life in Spring』（絵本）虹のアトリエ出版、2009 ISBN：978-4990004118 ・スザンネ・ラインホルト著/東福ヴァイラー眞弓訳『アントロポゾフィー音楽療法』アントロポゾフィー音楽療法士の会、2022 ISBN：なし ・勝田恭子、井藤元 他「アントロポゾフィー音楽療法における楽器演奏時の聴き手の脳波分析」『東京理科大学教職教育研究』第8号、2023		

課程	グリーフケア人材養成課程		
科目名	グリーフケア援助演習Ⅰ		
開講年度・学期	2024年度 秋学期		
開講曜日・時限	土曜日 3・4時限		
単位数	2単位		
担当教員	栗原幸江、大村哲夫		
講義概要	グリーフケア人材養成課程演習科目第2学期目の「グリーフケア援助演習Ⅰ」では、「しっかりと傾聴される体験を通して、傾聴することを学ぶ」学習を導入する。よき傾聴の前提となる、傾聴者の自己理解を深める学びを行う。 特に、授業目標に挙げた三つに焦点を当て、能動的で相互的な学習活動を行う。 毎回、担当教員によるその日の学びの焦点についての講義の後、小グループに分かれ、自己を語り、他者から関わりを受けるワークを行う。小グループにはチューターを配置する。 言語のみでなく身体感覚を活用するための学びを適宜実施する。 【演習科目を通しての約束事】 演習科目では、実践と体験を重視する。他の受講者から学び、他の受講者の学びの素材としても自身を提供する。このため、出席と相互の敬意、相互の信頼がきわめて重視される。グループ内の出来事は、グループ終了後には話題にせず、グループの外では話さない、という守秘義務の遵守が求められる。		
授業目標	グループワークを開始し、自身を開きながら聴く姿勢に挑戦する。 1)【自己理解と自己の影響】自己の感情の動きや価値観等の効果・影響について体験的に理解しよう。 2)【場に関わる】安全安心な場をつくり、そこでのフィードバックに挑戦しよう。 3)【ケアの多様性】傾聴における「支持・明確化・対峙」を学ぼう。		
評価	上記目標の各項目の達成度、出席およびグループワークへの参加を総合的に判断して評価する。特別な事情なしに3回以上欠席したものには原則として単位を与えない。		
授業計画	授業日程	担当	内容
	第1回 (9/28)	大村、栗原	グループ担当チューター紹介、2回目の自己紹介、グループワークの主旨と進め方講義、「思い出の品」グループワークの説明(グループで担当順決定)
	第2回 (10/12)	大村、栗原	「思い出の品」グループワーク
	第3回 (10/26)	大村、栗原	「思い出の品」グループワーク
	第4回 (11/9)	大村、栗原	「思い出の品」グループワーク
	第5回 (11/23)	大村、栗原	「間取り図」グループワーク
	第6回 (12/14)	大村、栗原	「間取り図」グループワーク
	第7回 (1/11)	大村、栗原	「間取り図」グループワーク
	第8回 (1/25)	大村、栗原	自助グループAAから学ぶ、1年の学びの振り返り、春休みの宿題提示
参考書	瀧口・大村・和田編『共に生きるスピリチュアルケア——医療・看護から宗教まで』創元社、2021年。ISBN: 978-4-422-11773-7		

課程	グリーフケア人材養成課程		
科目名	個別指導Ⅱ		
開講年度・学期	2024年度 秋学期		
開講曜日・時限	不定期 (※日程は後日連絡)		
単位数	1単位		
担当教員	栗原幸江、大村哲夫		
講義概要	「個別指導」では、傾聴者にとって不可欠な〈セルフ・リフレクション：自己の内部に働く力動を理解する力〉ならびに〈セルフケア〉を学ぶことに重点が置かれる。自分自身の課題や成長目標を意識しつつ現実の自分をもケアしてゆく姿勢を養う。ただし、治療などを旨とするセラピーセッションではないので、担当教員が継続的にケアを行うことは想定していない。 毎回の演習後の「リフレクション」、グループチューターによるサポートを踏まえて、学期中に2回教員との個人面談を行う。 例えば以下のような課題が予想される。 ・現実の日常生活に、この学びをどのように位置づけるか。 ・学んだことを、ケア現場にどのように活かすのか。 ・学習を通し明確化されゆく自己の価値観や優先順位を、人生の中でどう大切にしてゆくか。 ・演習で感じる価値観や諸前提の多様性や他者との違いを、どう受けとめ大切にしてゆくか。 ・座学でも一対一でもなく、グループワークならではの学びを、どのように深めてゆくか。 ・これまでのケア経験や自身の専門性と、上智での学びを、どう統合するか。		
授業目標	セルフケアを大切にする姿勢を養いつつ、傾聴者を目指す自身の課題を整理する。		
評価	出席による。		
授業計画	回	担当	内容
	秋学期中	栗原、大村	個人指導 ※日程は後日連絡
参考書			

課程	グリーフケア人材養成課程		
科目名	グリーフケア臨床訪問実習Ⅰ		
開講年度・学期	2024年度		
開講曜日・時限	不定期		
単位数	1単位		
担当教員	篠田美香		
講義概要	人材養成講座受講生が、実際の現場に触れ、学習内容を確認し深化させるとともに、教室の授業では把握できない現場の実際とその力動を体感する。 具体的には、夏期休暇期間中に関西圏の自助グループからメンバーに来所していただき、当事者の声を聴くとともに、実際にグループミーティングに参加することで様々な対人交流の在り方に触れる。 2年時春学期に日時等のガイダンスを実施し(参加時の注意点、振り返り)について通知する。 実習は2回の参加を行う。毎回遅滞なく振り返りレポートを作成し、担当教員に提出すること。		
授業目標	スピリチュアルケア、グリーフケアに必要と考えられる五つの領域の力を向上すべく、現場での多様で微妙な経験を通して学ぶ。 1)自己理解 2)他者理解 3)関係力、共感力 4)概念化力・表現力 5)臨床倫理実践力		
評価	出席と実習参加態度ならびに振り返りレポート踏まえて評価する。		
授業計画	回	担当	内容
	第1回 (8月11日)	篠田	自助グループ模擬ミーティングの参加による実習
	第2回 (9月14日)	篠田	自助グループ模擬ミーティングの参加による実習
参考書			

課程	グリーフケア人材養成課程		
科目名	グリーフケア援助論		
開講年度・学期	2024年度 春学期		
履修年次	2年次		
開講曜日・時限	水曜日 6時限		
単位数	2単位		
担当教員	西平直(コーディネーター)、梶山徹、木本努、坂下裕子、高階奈津美、田村恵子 谷山洋三、寺田眞治、三浦紀夫、横山正和		
講義概要	死別形態や対象者の違いによって、悲嘆の特徴とその援助方法や内容は異なってくる。また死別以外の社会における様々な悲嘆についても、その実践と方法は多様性をもつ。本講義では、具体的な実践方法や内容を当事者の視点を通して学ぶ。		
授業目標	1)様々な悲嘆の特徴を修得し、実践方法についての理解を深める。 2)受講生各人の実践に結び付ける。		
評価	期末レポート		
授業計画	授業日程	担当	内容
	第1回 (4/17)	梶山	がん患者とその家族のスピリチュアルケア(1)
	第2回 (4/24)	梶山	がん患者とその家族のスピリチュアルケア(2)
	第3回 (5/1)	横山	子どもを亡くした親の悲嘆とその生きる世界(1)
	第4回 (5/8)	横山	子どもを亡くした親の悲嘆とその生きる世界(2)
	第5回 (5/15)	木本	死別父子家庭の現状－遺族からのメッセージ
	第6回 (5/22)	高階	犯罪被害者の悲嘆とその支援
	第7回 (5/29)	三浦	高齢者の看取りとグリーフケア
	第8回 (6/5)	三浦	障がい者福祉とグリーフケア
	第9回 (6/12)	三浦	司法と連携するグリーフケア
	第10回 (6/19)	田村	緩和ケアの考え方と対人援助(1)
	第11回 (6/26)	田村	緩和ケアの考え方と対人援助(2)
	第12回 (7/3)	寺田	大切な家族を亡くして ～犯罪被害者遺族の立場から～
	第13回 (7/10)	谷山	東日本大震災での支援活動から
	第14回 (7/17)	坂下	幼子を亡くした悲しみと流産・死産の悲しみ
	第15回 (7/24)	坂下	子ども・きょうだい児へのグリーフケア
参考書			

課程	グリーフケア人材養成課程		
科目名	グリーフケア援助演習Ⅱ		
開講年度・学期	2024年度 春学期		
開講曜日・時限	土曜日 1・2時限		
単位数	2単位		
担当教員	栗原幸江、大村哲夫		
講義概要	グリーフケア人材養成課程演習科目第3学期目の「グリーフケア援助演習Ⅱ」では、「しっかりと傾聴される体験を通して、傾聴することを学ぶ」学習を継続する。 毎回、担当教員によるその日の学びの焦点についての講義の後、小グループに分かれ、自己を語り、他者に関わり、傾聴するワークを行う。小グループにはチューターを配置する。 「グリーフケア援助演習Ⅱ」では、前半では「印象深い絵画」、後半では「死生観」の語りを題材に、グループ内の力動を経験するグループワークを行う。 特に、授業目標に挙げた三つに焦点を当て、能動的で相互的な学習活動を行う。言語のみでなく身体感覚を活用するための学びを適宜実施する。 【演習科目を通しての約束事】 演習科目では、実践と体験を重視する。他の受講者から学び、他の受講者の学びの素材としても自身を提供する。このため、出席と相互の敬意、相互の信頼がきわめて重視される。グループ内の出来事は、グループ終了後には話題にせず、グループの外では話さない、という守秘義務の遵守が求められる。		
授業目標	グループワークに慣れ、自身を開きながら聴く体験が何度かできる。 1)【自己理解と自己の影響】自己の感情の動きや価値観等の効果・影響、スピリチュアリティについて体験的に理解しよう。 2)【場に関わって学ぶ】安全安心な場をつくり、相互のスピリチュアリティ涵養を意識したフィードバックを模索しよう。 3)【関係の理解と責任】傾聴における「受動態の関係力・能動態の関係力・中動態の関係力」を意識しよう。		
評価	上記目標の各項目の達成度、出席およびグループワークへの参与を総合的に判断して評価する。特別な事情なしに3回以上欠席したものには原則として単位を与えない。		
授業計画	授業日程	担当	内容
	第1回 (4/13)	栗原、大村	全員でチェックイン、学習目標の分かち合い、今学期のオリエンテーション(新グループで担当順決定)
	第2回 (4/27)	栗原、大村	「印象深い絵画」グループワーク
	第3回 (5/11)	栗原、大村	「印象深い絵画」グループワーク
	第4回 (5/25)	栗原、大村	「印象深い絵画」グループワーク
	第5回 (6/8)	栗原、大村	「わたしの死生観」グループワーク
	第6回 (6/22)	栗原、大村	「わたしの死生観」グループワーク
	第7回 (7/13)	栗原、大村	「わたしの死生観」グループワーク
	第8回 (7/27)	栗原、大村	半期のまとめ
参考書	瀧口・大村・和田編『共に生きるスピリチュアルケア——医療・看護から宗教まで』創元社、2021年。ISBN: 978-4-422-11773-7		

課程	グリーフケア人材養成課程		
科目名	臨床倫理		
開講年度・学期	2024年度 春学期		
履修年次	2年次		
開講曜日・時限	土曜日 3・4時限		
単位数	2単位		
担当教員	林貴啓		
講義概要	グリーフケアおよびスピリチュアルケアの専門職は、臨床において倫理的諸問題に直接間接に関与することが珍しくない。生命倫理、医療倫理、人権など臨床における倫理について、様々なテーマを通して検討する。「論理・想像力・対話」を鍵として倫理的に考える姿勢を培ってゆく。		
授業目標	「生と死」「スピリチュアリティ」「ケア」の問題について、倫理的に深く考えるための概念的なツールを身につけると同時に、講義担当者と受講者、および受講者同士のコミュニケーションを大幅に取り入れ、互いに意見を交わしつつ思考を深めてゆく。すべては、「いのちを本当に大切にするとはどういうことか」、一人ひとりの認識を深めるためである。		
評価	期末レポート		
授業計画	回	担当	内容
	第1回 (4/13)	林	イントロダクション／例題「誰にも迷惑をかけなければ、何をしても自由か？」
	第2回 (4/27)	林	倫理的思考のさまざま
	第3回 (5/11)	林	道徳的想像力の問題
	第4回 (5/25)	林	時事問題や映画、皆様から提案されたテーマをもとに、倫理的に考察・討議します（最終回まで同様。参考までに以下の欄には過去扱ったテーマを挙げます）。
	第5回 (6/8)	林	コロナ禍をめぐる倫理的問い／終末期の意思決定は誰が下すのか
	第6回 (6/22)	林	出生前診断をめぐる／家族と世代をめぐり倫理的問い
	第7回 (7/13)	林	人と動物との関わりを考える／自死をめぐる倫理的問い
	第8回 (7/27)	林	テクノロジーがもたらす生と死の変容を考える
参考書	各回の授業の配布資料で関連文献を紹介します。		

課程	グリーフケア人材養成課程		
科目名	個別指導Ⅲ		
開講年度・学期	2024年度 春学期		
開講曜日・時限	不定期 (※日程は後日連絡)		
単位数	1単位		
担当教員	児島若菜、西岡秀爾		
講義概要	「個別指導」では、傾聴者にとって不可欠な〈セルフ・リフレクション：自己の内部に働く力動を理解する力〉ならびに〈セルフケア〉を学ぶことに重点が置かれる。自分自身の課題や成長目標を意識しつつ現実の自分をもケアしてゆく姿勢を養う。ただし、治療などを目指すセラピーセッションではないので、担当教員が継続的にケアを行うことは想定していない。 毎回の演習への「リフレクション」の提出、グループチューターによるサポートに加えて、学期に1～2回の担当教員との個人セッションが「個別指導」の内容となる。 例えば以下のような課題が予想される。 ・現実の日常生活に、この学びをどのように位置づけるか。 ・学んだことを、ケア現場にどのように活かすのか。 ・学習を通し明確化されゆく自己の価値観や優先順位を、人生の中でどう大切にしてゆくか。 ・演習で感じる価値観や諸前提の多様性や他者との違いを、どう受けとめ大切にしてゆくか。 ・座学ではなく、グループワークならではの学びを、どのように深めてゆくか。		
授業目標	セルフケアを大切にする姿勢を養いつつ、傾聴者を目指す自身の課題を整理する。		
評価	出席による。		
授業計画	回	担当	内容
	春学期中	児島、西岡	個人指導 ※日程は後日連絡
参考書			

課程	グリーフケア人材養成課程		
科目名	スピリチュアルケア原論		
開講年度・学期	2024年度 秋学期		
履修年次	2年次		
開講曜日・時限	水曜日 6時限		
単位数	2単位		
担当教員	西平直(コーディネーター)、篠田美香、中井珠恵、森田敬史、坂井祐円、高木慶子(ゲストスピーカー)		
講義概要	スピリチュアリティ、スピリチュアルケアの概念・理論とその方法について、理論家の背景と理論内容を学びつつ、事例を通して、スピリチュアルケアについての基礎的知識を学ぶ。		
授業目標	スピリチュアルケアの基本理解を修得し、スピリチュアルケアを基盤としたグリーフケアについての理解を深める。		
評価	期末レポート		
授業計画	授業日程	担当	内容
	第1回 (9/25)	高木	スピリチュアルケア入門
	第2回 (10/2)	西平	スピリチュアルケアを学ぶ1－正解のない問い
	第3回 (10/9)	西平	スピリチュアルケアを学ぶ2－転移／逆転移
	第4回 (10/16)	森田	スピリチュアルケアの基礎
	第5回 (10/23)	森田	臨床現場におけるスピリチュアルケア
	第6回 (10/30)	森田	スピリチュアルケアと宗教
	第7回 (11/6)	中井	スピリチュアルケアと牧会ケア
	第8回 (11/13)	中井	スピリチュアルケアの視点
	第9回 (11/20)	中井	スピリチュアルケアの実践
	第10回 (11/27)	坂井	スピリチュアルケアとグリーフケア
	第11回 (12/4)	坂井	スピリチュアルケアとナラティブアプローチ
	第12回 (12/11)	坂井	スピリチュアルケアといのち教育
	第13回 (12/18)	篠田	スピリチュアルケアと心（1）心理療法との比較
	第14回 (1/8)	篠田	スピリチュアルケアと心（2）スピリチュアリティ
	第15回 (1/15)	篠田	スピリチュアルケアと心（3）スピリチュアルペインをめぐって
参考書			

課程	グリーフケア人材養成課程		
科目名	総合演習		
開講年度・学期	2024年度 秋学期		
開講曜日・時限	土曜日 1・2時限		
単位数	2単位		
担当教員	栗原幸江、大村哲夫		
講義概要	グリーフケア人材養成課程演習科目第4学期目の「総合演習」では、「しっかりと傾聴される体験を通して、傾聴することを学ぶ」学習を継続する。 毎回、担当教員によるその日の学びの焦点についての講義の後、小グループに分かれ、自己を語り、他者から関わりを受けるワークを行う。小グループにはチューターを配置する。 「総合演習」では、遺族会訪問実習を振り返りながらグループ内の力動を経験するグループワークを行う。また、ファシリテーションの考え方と実践を学ぶ。 特に、下記のような、能動的で相互的な学習活動を行う。 1) 語り手の思いに寄り添い、自分の感性を用いて聴く姿勢を実践的に学ぶ。 2) 傾聴者自身の価値観・世界観、無意識の前提について、他者からのフィードバックを通して、自己の傾聴スタイルを振り返る。 3) グループワーク形式の学びで、傾聴における介入の技法にもつながる相互のフィードバックを積極的かつ効果的に実践する。 言語のみでなく身体感覚を活用するための学びを適宜実施する。 【演習科目を通しての約束事】 演習科目では、実践と体験を重視し、他の受講者から学び、他の受講者の学びの素材としても自身を提供するため、出席と相互の敬意、相互の信頼がきわめて重視される。分かち合いをセッション内で完結し、グループの授業時間外に話題にしないなど、守秘義務の遵守が求められる。		
授業目標	1) 傾聴の理論を、実践的に理解する。 2) グループワークの中で効果的な行動が取れるようになる。 3) 実践に必要な知識が身につき、それを適切な言語で表現できるようになる。		
評価	上記目標の各項目の達成度、出席およびグループワークへの参与を総合的に判断して評価する。特別な事情なしに3回以上欠席したものには原則として単位を与えない。		
授業計画	授業日程	担当	内容
	第1回 (9/28)	大村、栗原	宿題の提出、全員でチェックイン、今学期のオリエンテーション、今学期の学習目標の確認、遺族会訪問実習振り返りのオリエンテーション(新グループで担当順決定)
	第2回 (10/12)	大村、栗原	遺族会訪問実習振り返りのグループワーク
	第3回 (10/26)	大村、栗原	遺族会訪問実習振り返りのグループワーク
	第4回 (11/9)	大村、栗原	遺族会訪問実習振り返りのグループワーク
	第5回 (11/23)	大村、栗原	臨床傾聴士としての活動ビジョン発表およびファシリテーション実習
	第6回 (12/14)	大村、栗原	臨床傾聴士としての活動ビジョン発表およびファシリテーション実習
	第7回 (1/11)	大村、栗原	臨床傾聴士としての活動ビジョン発表およびファシリテーション実習
	第8回 (1/25)	大村、栗原	スピリチュアルナリッシュメントのワーク、2年間の学習成果の振り返り
参考書	瀧口・大村・和田編『共に生きるスピリチュアルケア——医療・看護から宗教まで』創元社、2021年。ISBN: 978-4-422-11773-7		

課程	グリーフケア人材養成課程		
科目名	死生学		
開講年度・学期	2024年度 秋学期		
履修年次	2年次		
開講曜日・時限	土曜日 3・4時限		
単位数	2単位		
担当教員	西平直(コーディネーター)、井藤美由紀、西岡秀爾		
講義概要	死生学は「死」を主題とする。しかし死に光を当てることによって、「生(生きていること・生まれてきたこと)」も問題となる。死を主題とすることによってはじめて見えてくる「生」の地平。その問題を現代の文化に即して考える。現代日本の死生観や、死と向き合う様々な姿についても考察することになる。		
授業目標	死生学の概要を知るとともに、死や苦難に対する現代人の、また日本人の向き合い方を理解することができるようになることを目指す。		
評価	レポートによる評価と平常点		
授業計画	授業日程	担当	内容
	第1回 (9/28)	井藤	現代人の死生観－科学的思考と宗教文化的影響と
	第2回 (10/12)	西平	死んだらどこに行くのか－ライフサイクルの中の死
	第3回 (10/26)	井藤	長寿社会の悲劇－子を看取った親の事例
	第4回 (11/9)	西平	誕生の問い－生まれてきた幸せ・生まれてこなかった幸せ
	第5回 (11/23)	井藤	晩年の危機－死別後の“おひとり様”のレジリエンス
	第6回 (12/14)	西平	なぜこの人たちが－運命・苦難・諦念
	第7回 (1/11)	西岡	仏教の死生観－日本仏教と宗教的資源
	第8回 (1/25)	西岡	さまざまな喪失に向き合う－老・病・死ならびに死別のグリーフ
参考書			

課程	グリーフケア人材養成課程		
科目名	個別指導Ⅳ		
開講年度・学期	2024年度 秋学期		
開講曜日・時限	不定期 ※日程は後日連絡		
単位数	1単位		
担当教員	児島若菜、西岡秀爾		
講義概要	「個別指導」では、傾聴者にとって不可欠な〈セルフ・リフレクション：自己の内部に働く力動を理解する力〉ならびに〈セルフケア〉を学ぶことに重点が置かれる。自分自身の課題や成長目標を意識しつつ現実の自分をもケアしてゆく姿勢を養う。ただし、治療などを目指すセラピーセッションではないので、担当教員が継続的にケアを行うことは想定していない。 毎回の演習への「リフレクション」の提出、グループチューターによるサポートに加えて、学期に1～2回の担当教員との個人セッションが「個別指導」の内容となる。 例えば以下のような課題が予想される。 ・現実の日常生活に、この学びをどのように位置づけるか。 ・学んだことを、ケア現場にどのように活かすのか。 ・学習を通し明確化されゆく自己の価値観や優先順位を、人生の中でどう大切にしてゆくか。 ・演習で感じる価値観や諸前提の多様性や他者との違いを、どう受けとめ大切にしてゆくか。 ・座学ではなく、グループワークならではの学びを、どのように深めてゆくか。		
授業目標	セルフケアを大切にする姿勢を養いつつ、傾聴者を目指す自身の課題を整理する。		
評価	出席による。		
授業計画	回	担当	内容
	秋学期中	児島、西岡	個人指導 ※日程は後日連絡
参考書			

課程	グリーフケア人材養成課程		
科目名	グリーフケア臨床訪問実習Ⅱ		
開講年度・学期	2024年度		
開講曜日・時限	不定期		
単位数	1単位		
担当教員	篠田美香		
講義概要	人材養成講座受講生が、学びの様々な段階で実際のケア現場に触れ、学習内容を確認し深化させるとともに、教室の授業では把握できない現場の実際とその力動を体感する機会とする。 具体的には、2年次に関西の遺族会(家族会)に4回～5回訪問する。遺族会(家族会)において、様々な悲嘆ケア現場の活動に触れる。 毎回遅滞なく訪問記録を作成し、各遺族会(家族会)の担当者に提出し、コメントをいただく。また、訪問時の実習振り返りは、演習科目の授業で行う。 ※感染予防の対策を、十分に行った上で実習に行くこと。体調不良の場合は控えることとする。		
授業目標	スピリチュアルケア、グリーフケアに必要と考えられる五つの領域の力を向上すべく、現場での多様な経験を通して学ぶ。 1)自己理解 2)他者理解 3)関係力、共感力 4)概念化力・表現力 5)臨床倫理実践力		
評価	実習参加態度ならびに訪問記録等を踏まえて評価する。		
授業計画	回	担当	内容
	第1回	篠田	訪問オリエンテーション:訪問先についての学習、訪問の手順、記録。
	不定期	篠田	スケジュールを調整して、訪問。グループの活動学習、スタッフの役割など学習する。
参考書			

課程	資格認定課程		
科目名	精神医学・精神保健		
開講年度・学期	2024年度 春学期		
開講曜日・時限	水曜日 6時限		
単位数	2単位		
担当教員	村上典子、小笠原將之		
講義概要	精神医学や精神保健に関する基礎知識を習得し、病的悲嘆を抱えたケースについて、事例を参考にしつつアセスメントと対応方法について学ぶ。		
授業目標	精神医学・精神保健の基礎知識の習得と、病的な悲嘆についてのアセスメント		
評価	レポート10割(村上担当:小笠原担当=5:5の配点)		
授業計画	授業日程	担当	内容
	第1回 (4/17)	村上	精神医学・心身医学概論
	第2回 (4/24)	小笠原	心理アセスメントと精神医学的診断／精神症状学
	第3回 (5/1)	村上	うつ病
	第4回 (5/8)	小笠原	不安関連障害／全般性不安症、限局性恐怖症、社交不安症、パニック症、強迫症、解離症
	第5回 (5/15)	村上	PTSD、適応障害、心身症、身体症状症
	第6回 (5/22)	小笠原	小児期・青年期精神医学、発達障害
	第7回 (5/29)	小笠原	統合失調症、双極性障害
	第8回 (6/5)	村上	身体疾患による喪失へのケア(コンサルテーション・リエゾン)
	第9回 (6/12)	小笠原	高齢者精神医学、認知症、自殺問題
	第10回 (6/19)	村上	災害におけるグリーフケア
	第11回 (6/26)	小笠原	パーソナリティ障害、摂食障害
	第12回 (7/3)	村上	災害・救急領域におけるグリーフケア
	第13回 (7/10)	小笠原	アルコール障害、薬物障害
	第14回 (7/17)	村上	様々な悲嘆の実例
	第15回 (7/24)	小笠原	地域精神保健、精神医学と法律
参考書			

課程	資格認定課程		
科目名	実習スーパービジョンⅠ		
開講年度・学期	2024年度 春学期		
開講曜日・時限	土曜日 1・2時限		
単位数	2単位		
担当教員	篠田美香、中井珠恵		
講義概要	グループに分かれて、いくつかの題材によるワークを行う。また会話記録の検討を通じて「通年実習」の振り返りを行い、ケアを体験的・実践的に学ぶ。自己の課題・限界・可能性を認識しつつ、ほかならぬその自己をもってケアにあたることを、知的にも感覚的にも学習する。 【演習科目を通しての約束事】 演習科目では、実践と体験を重視する。他の受講者から学び、他の受講者の学びの素材としても自身を提供する。このため、出席と、相互の敬意・相互の信頼がきわめて重視される。グループ内の出来事は、グループ終了後には話題にせず、グループの外では話さないという守秘義務の遵守が求められる。		
授業目標	資格認定課程の三つのポリシーに記されている「他者理解力、自己理解力、能動的関係力、受動的関係力、中動的関係力、言語表現・概念化力、倫理実践力」が習得でき、ケアの現場で適切に用いられるようになる。 ケアの力動の中における自己のあり方を、知的にも身体感覚的にも理解できるようになる。 周囲にあるケア資源との連携を適切に行なうことができ、またその際に、社会常識と倫理にも配慮しうようになる。		
評価	出席および演習への積極的参加、自己課題への取り組みを総合的に判断する。特別な事情なしに三回以上欠席したものには原則として単位を与えない。		
授業計画	授業日程	担当	内容
	第1回 (4/13)	篠田、中井	オリエンテーション・自己紹介・学習課題設定
	第2回 (4/27)	篠田、中井	倫理についての講義と事例検討
	第3回 (5/11)	篠田、中井	自身の生育歴を語る
	第4回 (5/25)	篠田、中井	自身の生育歴を語る
	第5回 (6/8)	篠田、中井	印象に残っている人とのエピソードを語る
	第6回 (6/22)	篠田、中井	印象に残っている人とのエピソードを語る
	第7回 (7/13)	篠田、中井	会話記録検討
参考書	参考書：窪寺俊之・谷山洋三・伊藤高章『スピリチュアルケアを語る(3)臨床的教育法の試み』関西学院大学出版会、2010年。ISBN:978-4-86283-067-8		
	中井珠恵『スピリチュアルケア 入門編』YOBEL,Inc 2022年。ISBN:978-4-90987-175-6		

課程	資格認定課程		
科目名	文献講読 I		
開講年度・学期	2024年度 春学期		
開講曜日・時限	第2土曜日 3・4時限		
単位数	1単位		
担当教員	松田真理子		
講義概要	グリーフケアとスピリチュアルケアに関わる基本文献を購読し、理解を深める。授業内で、課題発見を目的としたグループディスカッションを行う。なお、グループ分け・担当箇所振り分けなど、諸々のガイダンスは、事前にメールで行い、初日(第一回)から実質的な発表に入る。		
授業目標	グリーフケアとスピリチュアルケアと宗教学に関わる基本文献を読み、要約・発表し、討議する力を身につける。		
評価	出席とレポート		
授業計画	授業日程	担当	内容
	第1回 (4/13)	松田	瀧口俊子・大村哲夫・和田信監修『共に生きるスピリチュアルケア』を読む①②
	第2回 (5/11)	松田	瀧口俊子・大村哲夫・和田信監修『共に生きるスピリチュアルケア』を読む③④
	第3回 (6/8)	松田	瀧口俊子・大村哲夫・和田信監修『共に生きるスピリチュアルケア』を読む⑤⑥
	第4回 (7/13)	松田	瀧口俊子・大村哲夫・和田信監修『共に生きるスピリチュアルケア』を読む⑦⑧
参考書	瀧口俊子・大村哲夫・和田信監修『共に生きるスピリチュアルケア』創元社、2021年。ISBN:978-4-422-11773-7 エリザベス・キューブラー＝ロス『死ぬ瞬間——死とその過程について』中公文庫、2001年。ISBN:978-4-12206-828-5		

課程	資格認定課程		
科目名	ソーシャルワークとグリーフケア		
開講年度・学期	2024年度 春学期		
開講曜日・時限	第4土曜日 3・4時限		
単位数	1単位		
担当教員	里村生英、山口宰		
講義概要	〔里村〕ソーシャルワークとは、端的に表現すれば、社会福祉援助活動において用いられる専門援助技術（art）の総称であり、人びとを援助する際に用いる様々な援助を含む。第1回・第2回の授業では、社会福祉の基本的理念・原則に鑑みながら、喪失・悲嘆のケア実践の例を取り上げ、援助する上で必要な知識、技術、体制・環境づくりについて学ぶ。 〔山口〕世界で最も高齢化の進む日本の高齢者介護現場において、死は避けて通ることのできないテーマである。第3回・第4回の授業では、日本の高齢者介護の現状を概観するとともに、様々な介護現場における看取りとグリーフケアの現状と課題について学ぶ。また、福祉先進国スウェーデンを取り上げ、死生観や看取りの日本との違いについて学ぶ。		
授業目標	〔里村〕①グリーフケアの隣接領域である社会福祉領域（ソーシャルワーク）の基本的事柄を確認し、事例を通じてグリーフケアの“ソーシャルな”側面について理解を深める。②喪失・悲嘆を取り扱う援助活動のあり方について、講義及びプラクティスを基にリフレクションし、現段階の自分の考えを言語化できる。 〔山口〕日本・スウェーデンにおける高齢者福祉の現状と課題について理解を深めるとともに、死生観や看取り、グリーフケアのあり方について、議論を通じて自分の考えを持つことができる。		
評価	出席およびレポートによる		
授業計画	回	担当	内容
	第1回 (4/27)	里村	・「ソーシャルワーク」と社会福祉援助活動ーグリーフケアの隣接領域という視点から見た社会福祉の基本的理念・原則ー ・ひとつのインフォーマル資源:「ハーブ訪問」の様相
	第2回 (5/25)	里村	・スピリチュアリティ志向の援助活動概観ー儀式、祈り、瞑想に焦点を当ててー ・喪失・悲嘆のケアの一資源としてのラビリンス・ウォークの適用の可能性探求(プラクティス予定) ・1・2回のまとめー各自の整理に向けて:ソーシャルワークとグリーフケアの課題と展望
	第3回 (6/22)	山口	・日本の高齢者介護を取り巻く状況、制度・システムに関する基礎的理解 ・日本の高齢者介護現場における看取りとグリーフケアの実際
	第4回 (7/27)	山口	・スウェーデンの福祉とノーマライゼーションの理念 ・スウェーデンの高齢者介護と死生観 ・まとめーソーシャルワークとグリーフケアのこれから
参考書	〔里村推奨分〕・山田美津子他編『社会福祉を学ぶ』みらい,2019,ISBN:978-4-86015-479-0・E.R.カンダ/L.D.ファーマン『ソーシャルワークにおけるスピリチュアリティとは何かー人間の根源性にもとづく援助の核心』ミネルヴァ書房,2014,ISBN:978-4-623-07199-9・里村生英『やわらかなスピリチュアルケア』春秋社,2021,ISBN:978-4-39393-523-1 (ほか←全て授業で紹介します。) 〔山口推奨分〕・大熊由紀子(1990)『「寝たきり老人」のいる国いない国ー真の豊かさへの挑戦』ぶどう社。ISBN:978-4-89240-095-7・大岡頼光(2004)『なぜ老人を介護するのかースウェーデンの日本との家と死生観』勁草書房。ISBN:978-4-32665-290-7・山口宰(2013)『明日の福祉に希望の光をーオリンピアのノーマライゼーション』聖公会出版。ISBN:978-4-88274-240-1		

課程	資格認定課程		
科目名	個別指導Ⅴ		
開講年度・学期	2024年度 春学期		
開講曜日・時限	不定期 (※日程は後日連絡)		
単位数	1単位		
担当教員	篠田美香		
講義概要	個人面談を通じて、受講生個々のケア提供者としての個性や課題について一緒に検討する。		
授業目標	グループでの学びをさらに別の視点から深化でき、ケア提供者としての課題・限界・可能性と対処法を内省と対話の中で探ることができる。		
評価	出席による。		
授業計画	回	担当	内容
	春学期中	篠田	個人指導 ※日程は後日連絡
参考書			

課程	資格認定課程		
科目名	先端医療・緩和医療		
開講年度・学期	2024年度 秋学期		
開講曜日・時限	水曜日 6時限		
単位数	2単位		
担当教員	和田信(コーディネーター)、川島正裕、池永昌之、柏木雄次郎、加納麻子、岸本寛史、和田知未、尾池真理		
講義概要	病院と在宅における緩和医療について、診療に携わる第一線の医師と看護師が解説する。がん関連の緩和医療の基本的説明とともに、臨床の現場で生じる様々な問題点や課題を、経験に基づいて具体的に伝える。がんを患う人と家族の精神的苦痛と支援対応に関する講義も行う。		
授業目標	緩和医療の基本的な考え方と実践の概要を把握し、グリーフケアの観点から考察できる。		
評価	レポート		
授業計画	授業日程	担当	内容
	第1回 (9/25)	川島	緩和ケア①
	第2回 (10/2)	川島	緩和ケア②
	第3回 (10/9)	川島	緩和ケア③
	第4回 (10/16)	池永	緩和ケア④
	第5回 (10/23)	池永	緩和ケア⑤
	第6回 (10/30)	柏木	精神腫瘍①
	第7回 (11/6)	和田信	精神腫瘍②
	第8回 (11/13)	和田信	精神腫瘍③
	第9回 (11/20)	加納	在宅緩和ケア①
	第10回 (11/27)	加納	在宅緩和ケア②
	第11回 (12/4)	岸本	緩和ケア⑥
	第12回 (12/11)	和田知未	在宅緩和ケア③/緩和ケア⑦/精神腫瘍④
	第13回 (12/18)	和田知未	在宅緩和ケア④/緩和ケア⑧/精神腫瘍⑤
	第14回 (1/8)	尾池	在宅緩和ケア⑤(看護)
	第15回 (1/15)	和田信	まとめ
参考書	各講師が講義中に紹介する。		

課程	資格認定課程		
科目名	実習スーパービジョンⅡ		
開講年度・学期	2024年度 秋学期		
開講曜日・時限	土曜日 1・2時限		
単位数	2単位		
担当教員	篠田美香、中井珠恵		
講義概要	「集中臨床実習・演習Ⅰ」の振り返りを全体で行う。グループに分かれ、いくつかの題材によるワークや、会話記録の検討を通じて「通年実習」の振り返りを行う。これらを通してケアを体験的・実践的に学び、自己の課題・限界・可能性を認識しつつ、ほかならぬその自己をもってケアにあたることを、知的にも感覚的にも学習する。 【演習科目を通しての約束事】 演習科目では、実践と体験を重視する。他の受講者から学び、他の受講者の学びの素材としても自身を提供する。このため、出席と、相互の敬意・相互の信頼がきわめて重視される。グループ内の出来事は、グループ終了後には話題にせず、グループの外では話さない、という守秘義務の遵守が求められる。		
授業目標	資格認定課程の三つのポリシーに記されている「他者理解力、自己理解力、能動的関係力、受動的関係力、中動的関係力、言語表現・概念化力、倫理実践力」が習得でき、ケアの現場で適切に用いるようになる。 ケアの力動の中における自己のあり方を、知的にも身体感覚的にも理解できるようになる。 周囲にあるケア資源との連携を適切に行なうことができ、またその際に、社会常識と倫理にも配慮できるようになる。		
評価	出席および演習への積極的参加、自己課題への取り組みを総合的に判断する。特別な事情なしに三回以上欠席したものには原則として単位を与えない。		
授業計画	授業日程	担当	内容
	第1回 (9/28)	篠田、中井	今学期の学習目標、「集中臨床実習・演習Ⅰ」ふりかえり
	第2回 (10/12)	篠田、中井	ライフヒストリー曼荼羅作成
	第3回 (10/26)	篠田、中井	ライフヒストリー曼荼羅作成
	第4回 (11/9)	篠田、中井	自身のケア観の発表およびファシリテーター演習
	第5回 (11/23)	篠田、中井	自身のケア観の発表およびファシリテーター演習
	第6回 (12/14)	篠田、中井	会話記録検討
	第7回 (1/11)	篠田、中井	会話記録検討
参考書	第8回 (1/25)	篠田、中井	1年のまとめ
	窪寺俊之・谷山洋三・伊藤高章『スピリチュアルケアを語る(3)臨床的教育法の試み』関西学院大学出版会、2010年。ISBN:978-4-86283-067-8 中井珠恵『スピリチュアルケア 入門編』YOBEL, Inc. 2022年。ISBN:978-4-90987-175-6		

課程	資格認定課程		
科目名	文献講読Ⅱ		
開講年度・学期	2024年度 秋学期		
開講曜日・時限	第4土曜日 3・4時限		
単位数	1単位		
担当教員	西平直		
講義概要	グリーフケア・スピリチュアルケアの基本文献を丁寧に読み、意見を交換しながら、自分なりの考えを整理する。なお、グループ分け・担当箇所振り分けなど、諸々のガイダンスは、事前にメールで行い、初日(第一回)から実質的な発表に入る。		
授業目標	文献を丁寧に読むセンスを磨くと共に、互いに意見を交換するセンス、自分の見解を丁寧に相手に届ける力を身につける。		
評価	出席とレポート		
授業計画	授業日程	担当	内容
	第1回 (9/28)	西平	窪寺俊之『スピリチュアルケア学概説』を読む①②
	第2回 (10/26)	西平	窪寺俊之『スピリチュアルケア学概説』を読む③④
	第3回 (11/23)	西平	窪寺俊之『スピリチュアルケア学概説』を読む⑤⑥
	第4回 (1/11)	西平	窪寺俊之『スピリチュアルケア学概説』を読む⑦⑧
参考書	窪寺俊之『スピリチュアルケア学概説』三輪書店、2008年。ISBN:978-4-89590-299-1 脇本平也『宗教学入門』講談社学術文庫、2010年。ISBN:978-4-62304-146-6		

課程	資格認定課程		
科目名	臨床心理とグリーフケア		
開講年度・学期	2024年度 秋学期		
開講曜日・時限	第2土曜日 3・4時限		
単位数	1単位		
担当教員	松田真理子		
講義概要	臨床とはもともと「死の床にはべり看取りをする」という意味である。よって、臨床心理学は死を間際にし苦しむ人、人生の大きな課題にぶつかり悩み苦しむ人の傍に寄り添い、哀しみや苦しみを共にすると同時に人生の次の扉を開いていく道行きを見守ることを意味する。本講義では臨床心理学の成立過程や重視する視座を解説し、グリーフケアと重なる側面を明らかにしていく。その上で家族、大切な人、思い出の家や土地、品物、集中力や記憶力、体力や身体能力、社会的立場、仕事、経済力など、様々な次元における喪失の哀しみと苦しみ、世の不条理や理不尽とも思われる過酷な試練に焦点を当てていく。その上で喪失による悲嘆からの回復についてを臨床心理学的視座、グリーフケア的視座から検討し、人間の実存に関する深い理解へと掘り下げていく。		
授業目標	臨床心理学が重視する臨床姿勢や視座への理解を深め、グリーフケアの本質的理解、実践的理解を洗練させていく。		
評価	授業の出席50％・毎回の授業の最後にご記入いただくコメントカード30％・期末の課題レポート20％		
授業計画	授業日程	担当	内容
	第1回 (10/12)	松田	①意識と無意識 フロイトの精神分析から ②エリクソンのライフサイクル理論
	第2回 (11/9)	松田	③再生医療・先端医療とグリーフケア ④災害心理学とグリーフケア
	第3回 (12/14)	松田	⑤遺伝カウンセリングとグリーフケア ⑥ターミナルケア・緩和医療とグリーフケア ― 悲嘆からの回復―
	第4回 (1/25)	松田	⑦ハンセン氏病とグリーフケア ⑧マザー・テレサによる「死にゆく人々」の看取りと遠藤周作の『深い河』-人生は喪失と回復の連続体であることへの多角的視点と理解
参考書	松田真理子『医療心理学を考える——カウンセリングと医療の実践』晃洋書房、2016年。ISBN：978-4-77102-750-3 松田真理子『芸術と文学の精神世界——病跡学的視点から』晃洋書房、2018年。ISBN：978-4-77103-071-8		

課程	資格認定課程		
科目名	個別指導Ⅵ		
開講年度・学期	2024年度 秋学期		
開講曜日・時限	不定期 (※日程は後日連絡)		
単位数	1単位		
担当教員	篠田美香		
講義概要	個人面談を通じて、受講生個々のケア提供者としての個性や課題について一緒に検討する。		
授業目標	グループでの学びをさらに別の視点から深化でき、ケア提供者としての課題・限界・可能性と対処法を内省と対話の中で探ることができる。		
評価	出席による。		
授業計画	回	担当	内容
	秋学期中	篠田	個人指導 ※日程は後日連絡
参考書			

課程	資格認定課程		
科目名	集中臨床実習・演習Ⅰ		
開講年度・学期	2024年度		
開講曜日・時限	集中		
単位数	2単位		
担当教員	篠田美香		
講義概要	(1)医療・福祉の臨床現場において、ケアチームに参加し、現実にケアニーズを抱える方を訪問し、傾聴を中心としたケアを実践する。並行して実施される(2)個人の課題や訪問の記録をグループで検討する演習、(3)個人の課題を明確しそれに取り組む個人スーパービジョン。この三者が連動し、知識の習得にとどまらない、感性・感情・身体感覚を動員した学びの経験を作り上げる共同作業を行う。そして、全身全霊で傾聴されること・傾聴することの意味を実感する。 【演習科目を通しての約束事】 演習科目では、実践と体験を重視し、他の受講者から学び、他の受講者の学びの素材としても自身を提供する。このため、出席と相互の敬意、相互の信頼がきわめて重視される。グループ内の出来事は他の場所で話さないという守秘義務の遵守とあわせて、分かち合いをセッション内で完結し、授業時間外に話題にしないというグループワークの約束事が求められる。		
授業目標	資格認定課程の3つのポリシーに記されている「他者理解力、自己理解力、能動的関係力、受動的関係力、中動的関係力、言語表現・概念化力、倫理実践力」が習得され、それが実感でき、ケアの現場で適切に用いることができるようになる。 ケアニーズを抱える方と自己との力動、グループの力動の中において、自己のあり方を、知的にも感覚的にも理解できるようになる。理解された自己を、他の方のケアのために提供することができ、いっぽう、周囲にあるケア資源との連携を適切に行なうことができるようになる。		
評価	臨床実習内容30%、演習50%、学習成果報告20%：上記の7つの力に照らして評価する。		
授業計画	回	担当	内容
	集中	篠田	夏期休暇期間中に、医療・福祉施設を会場に日曜日から土曜日まで集中実習を行う。 この実習は、一般社団法人日本スピリチュアルケア学会臨床スピリチュアルケア師受験資格に必要とされる実習時間(120時間)のうちの20時間に充当されます。
参考書	窪寺俊之・谷山洋三・伊藤高章『スピリチュアルケアを語る(3)臨床的教育法の試み』関西学院大学出版会、2010年。ISBN:978-4-86283-067-8		

課程	資格認定課程		
科目名	集中臨床実習・演習Ⅱ		
開講年度・学期	2024年度		
開講曜日・時限	集中		
単位数	2単位		
担当教員	篠田美香		
講義概要	(1)医療・福祉の臨床現場において、ケアチームに参加し、現実にはケアニーズを抱える方を訪問し、傾聴を中心としたケアを実践する。並行して実施される(2)個人の課題や訪問の記録をグループで検討する演習、(3)個人の課題を明確しそれに取り組む個人スーパービジョン。この三者が連動し、知識の習得にとどまらない、感性・感情・身体感覚を動員した学びの経験を作り上げる共同作業を行う。そして、全身全霊で傾聴されること・傾聴することの意味を実感する。 【演習科目を通しての約束事】 演習科目では、実践と体験を重視し、他の受講者から学び、他の受講者の学びの素材としても自身を提供する。このため、出席と相互の敬意、相互の信頼がきわめて重視される。グループ内の出来事は他の場所で話さないという守秘義務の遵守とあわせて、分かち合いをセッション内で完結し、授業時間外に話題にしないというグループワークの約束事が求められる。		
授業目標	資格認定課程の3つのポリシーに記されている「他者理解力、自己理解力、能動的関係力、受動的関係力、中動的関係力、言語表現・概念化力、倫理実践力」が習得され、それが実感でき、ケアの現場で適切に用いることができるようになる。 ケアニーズを抱える方と自己との力動、グループの力動の中において、自己のあり方を、知的にも感覚的にも理解できるようになる。理解された自己を、他の方のケアのために提供することができ、いっぽう、周囲にあるケア資源との連携を適切に行なうことができるようになる。		
評価	臨床実習内容30%、演習50%、学習成果報告20%：上記の7つの力に照らして評価する。		
授業計画	回	担当	内容
	集中	篠田	2025年春期休暇期間中に、医療・福祉施設を会場に日曜日から土曜日まで集中実習を行う。 この実習は、一般社団法人日本スピリチュアルケア学会臨床スピリチュアルケア師受験資格に必要とされる実習時間(120時間)のうちの20時間に充当されます。
参考書	窪寺俊之・谷山洋三・伊藤高章『スピリチュアルケアを語る(3)臨床的教育法の試み』関西学院大学出版会、2010年。ISBN:978-4-86283-067-8		

課程	資格認定課程
科目名	通年実習
開講年度・学期	2024年度
開講曜日・時限	通年
単位数	—
担当教員	篠田美香
講義概要	受講生自身が選んだ臨床現場において、年間100時間以上の実習を行う。臨床現場での経験・学びと合わせ、実習報告としての会話記録の検討(実習スーパービジョンⅠ・Ⅱ)を通して、各自の関心に即してケアを体験的・実践的に学ぶ。 ※感染問題の状況に応じて、実習先および実習形態が変更になることがある。
授業目標	資格認定課程の3つのポリシーに記されている「他者理解力、自己理解力、関係力・共感、言語表現・概念化力、倫理実践力」が習得され、それが実感でき、ケアの現場で適切に用いることができるようになる。 ケアニーズを抱える方と自己との力動、グループの力動の中において、自己のあり方を、知的にも感覚的にも理解できるようになる。理解された自己を、他の方のケアのために提供することができ、いっぽう、周囲にあるケア資源との連携を適切に行なうことができるようになる。
評価	通年実習については成績評価の対象としない。
授業計画	内容
	通年実習のオリエンテーションをもとに、実習先を決定し、実習計画を立て、必要な実習依頼手続きを経て、実習に入る。 この通年実習の時間は、一般社団法人日本スピリチュアルケア学会の臨床スピリチュアルケア師受験資格に必要とされる実習時間(120時間)のうちの100時間に充当される。 実習での学び、課題については、「実習スーパービジョンⅠ」「実習スーパービジョンⅡ」の授業グループワークを通して検討する。
参考書	

【上智大学グリーフケア研究所 人材養成講座細則】

制定 平成 23 年 4 月 1 日

改正 平成 27 年 4 月 1 日 平成 29 年 4 月 1 日

第 1 章 目的

(趣旨)

第 1 条 この細則は、グリーフケア研究所規程第 3 条第 2 項に基づき、上智大学（以下「本学」という。）が設置する上智大学グリーフケア研究所（以下「研究所」と言う。）が開講するグリーフケア人材養成講座（以下、「講座」という。）について、必要な事項を定める。

(目的)

第 2 条 講座は、本学の教育精神、“Men and Women for Others, with Others - 他者のために、他者とともに生きる者”に基づき、死生学を基盤とし、さまざまな喪失によるグリーフ（悲嘆）を抱える個人や共同体に対して、スピリチュアルケアを提供できる人材を養成することを目的とする。

(自己点検評価)

第 3 条 研究所は、講座の教育水準の向上を図り、その目的及び社会的使命を達成するため、教育活動の状況について自己点検及び評価を実施するものとする。

2 自己点検及び評価の実施体制並びに方法については、別に定める。

(課程)

第 4 条 第 2 条の目的を達成するために、次の課程を置く。

- (1) グリーフケア人材養成課程
- (2) 資格認定課程
- (3) 専門課程

2 前項の各課程の入学定員は、別に定める。

第 2 章 修業年限、学年、学期及び休業日

(修業年限)

第 5 条 前条に定める各課程の修業年限は、次のとおりとする。

- (1) グリーフケア人材養成課程 2 年間
- (2) 資格認定課程 1 年間
- (3) 専門課程 1 年間

(学年及び学期)

第 6 条 学年は、4 月 1 日に始まり翌年 3 月 31 日に終わる。

第 7 条 学期は、学年を分けて、春学期及び秋学期とし、それぞれ次の期間とする。

春学期 4 月 1 日から 9 月 20 日まで

秋学期 9 月 21 日から翌年 3 月 31 日まで

(休業日)

第 8 条 授業休業日は、次のとおりとする。ただし、第 5 号から第 7 号の授業休業期間の始期及び終期は、年度により別に定める。

- (1) 日曜日
- (2) 国民の祝日に関する法律（昭和 23 年法律第 178 号）に規定する休日
- (3) 創立記念日（11 月 1 日）
- (4) 聖ザビエルの祝日（12 月 3 日）
- (5) 春期休業
- (6) 夏期休業
- (7) 冬期休業

2 上智大学長（以下、「学長」という。）は必要に応じ、前項各号以外の日を臨時に授業休業日とすることができる。

3 学長は必要に応じ、第 1 項各号に定める授業休業日を、授業日（補講日及び集中講義期間を含む）とすることができる。

第 3 章 授業科目及び単位

(授業科目の種類)

第 9 条 授業科目の種類は、本学及び他施設で行う講義科目、演習科目及び実習科目とする。

2 授業科目の編成は、別に定める。

3 前項で定めるもののほか、学長は臨時に授業科目を開設することができる。

(単位の付与)

第 10 条 授業科目を履修する場合、その授業に出席し、かつ、試験に合格した者には、その授業科目所定の単位を与える。

2 授業科目の単位は、別に定める。

(単位数)

第11条 授業科目の単位数は、1単位履修に45時間の学修を要することを標準とし、次の基準によって授業時間に対応した単位数を計算する。

- (1) 講義及び演習については、15時間から30時間の授業をもって1単位とする。
 - (2) 実習については、30時間から45時間の授業をもって1単位とする。
- 2 1単位の計算基礎となる授業時間については、学長がこれを決定する。

第4章 入学、休学、退学及び再入学

(入学の時期)

第12条 入学時期は、学年の始めとする。

(グリーンケア人材養成課程への入学の許可)

第13条 本学は、次の各号に該当する者につき、選考の上、グリーンケア人材養成課程への入学を許可する。

- (1) 専門的な知識・援助技術をもって、グリーンケアの実践に携わることを目的とし、次のすべてに該当する者
 - ① 心身ともに健康である者
 - ② 多様な思想・宗教・伝統・文化・価値観があることを謙虚に受け入れて、自己の成長を目指している者
 - ③ 教員や他の受講生とのコミュニケーションを通して、相互研鑽を図ることができる者
 - ④ 学習に支障をきたすような自分自身の強いケアニーズを抱えていない者
- (2) 次のいずれかの学歴または職歴を有する者
 - ① 大学(短期大学を含む)を卒業、または卒業見込みの者
 - ② 国内外において、学校教育における12年の課程を修了し、さらに専門課程を置く専修学校において2年以上の課程を修了、または、修了見込みの者
 - ③ 上記①および②と同等以上の学力があると認められた者
 - ④ 社会福祉士、介護福祉士又は精神保健福祉士の資格を有し、当該資格にかかる実務経験が10年以上ある者

2 入学の許可は、学長がこれを決定する。

(資格専門課程への入学の許可)

第14条 本学は、第4条に定めるグリーンケア人材養成課程を修了した者につき、選考の上、資格認定課程への入学を許可する。

2 前項にかかわらず、グリーンケア人材養成課程を修了した者と同等であると認められた場合、グリーンケア人材養成課程を修了していない者について、資格認定課程への入学を許可することができる。

3 入学の許可は、学長がこれを決定する。

(専門課程への入学の許可)

第15条 本学は、第4条に定める資格認定課程を修了した者につき、選考の上、専門課程への入学を許可する。

2 前項にかかわらず、資格認定課程を修了した者と同等であると認められた場合、グリーンケア人材養成課程を修了していない者について、専門課程への入学を許可することができる。

3 入学の許可は、学長がこれを決定する。

(出願)

第16条 第4条に定める各課程への入学を志願する者は、所定の入学検定料を納入し、本学所定の入学願書を指定の期日までに提出しなければならない。

2 既納の入学検定料は、返還しない。

(選考)

第17条 前条の入学志願者については、別に定めるところにより、選考を行う。

(入学手続)

第18条 前条に基づき入学を許可された者は、所定の入学手続書類に入学納付金を添えて、指定の期日までに提出しなければならない。

(再入学の取扱)

第19条 第4条に定める各課程途中で退学し、再び入学しようとする者については、別に定める。

(休学)

第20条 傷病、家事都合、その他のやむを得ない理由で休学しようとする者は、その理由を詳記した休学願を提出し、学長の許可を受けなければならない。

2 休学の期間は、1学期又は1学年を区分とし、通算で在学する課程の修業年限を超えることはできない。

3 許可された休学期間が満了した場合は、復学とする。

4 休学期間中に休学の事由がやみ、復学しようとする者は、所定の復学届を提出しなければならない。

(在学年数)

第21条 第4条に定める各課程に在学する年数は、在学する課程の修業年限の2倍を越えることはできない。

2 前項の在学年数に、休学期間を含まない。

(退学)

第22条 退学しようとする者は、所定の様式による退学願を受講生証とともに提出し、学長の許可を受けなければならない。

2 退学を願い出る者は、その時期までの受講料等を完納しなければならない。

第5章 各課程の履修、試験、成績評価及び修了

(履修科目・単位数)

第23条 第4条に定める各課程の履修科目及び単位数は、別に定める。

2 第4条に定める各課程において履修すべき授業科目の一部について、他の学校等により同等の授業科目を修得したときは、当該科目を認定し、授業科目の履修を免除することができる。

3 前項の細目については、別に定める。

(試験)

第24条 定期試験は、筆記試験又はレポート試験とし、本学が定める期間に行う。

(成績評価)

第25条 授業科目の成績評価は、上位よりA(100～90点)、B(89～80点)、C(79～70点)、D(69～60点)、F(59点以下)、X及びPの評語をもって表示し、A、B、C、Dを合格、F及びXを不合格とし、Pを認定とする。

2 前項に定める成績評価において、F及びXの成績評価を得た授業科目は、再履修しなければならない。

(修了)

第26条 第5条に定める各課程の修業年限を満たし、修了に必要な所定の授業科目の単位を修得した者については、学長が修了を認定する。

2 修了の期日は、毎年3月31日とする。

3 修了者には、学校教育法が定める「履修プログラム」に基づく「履修証明書」が付与される。

(資格付与等)

第27条 第4条に定めるグリーンケア人材養成課程において所定の単位を修得し、総合審査合格した者には、「臨床傾聴士」の資格が付与される。

2 資格認定課程において、所定の単位を修得し、総合審査合格した者には、日本スピリチュアルケア学会が認定する「スピリチュアルケア師(認定)」への推薦資格が付与される。

3 専門課程において、所定の単位を修得し、総合審査合格した者には、日本スピリチュアルケア学会が認定する「スピリチュアルケア師(専門)」への推薦資格が付与される。

第6章 賞罰

(表彰)

第28条 学長は、人物及び学術優秀な受講生を表彰する。

(懲戒)

第29条 受講生としてその本分に反した行為があったと認められたときは、その軽重に従い、退学又は訓告処分とする。

(1) 著しく性行不良で改善の見込みがないと認められた者

(2) 学内の秩序を乱した者

(3) 大学の名誉を著しく毀損した者

(4) 授業運営を妨害、又は他の受講生の学習に支障をきたした者

(5) その他本学に在学させることが不適当と認められた者

2 前項の処分は、学長が行う。

3 前二項に定めるもののほか、受講生の処分に必要な事項は別に定める。

第7章 納付金及び受講料等

第30条 第18条に定める入学に必要な納付金は、別に定める。

2 受講生は、受講料等納付金を所定の期限内に納めなければならない。

3 前条の受講料等納付金を所定の期日までに納付しない者は、退学させる。

4 休学時の受講料等納付金については、別に定める。

5 既納の受講料等諸納付金は、返還しない。

第8章 その他

第31条 本細則に定めていない事項及び本細則の改正については、本学院の定める手続による。

附 則

この規程は2011年(平成23年)4月1日から施行する。

附則

この規程は施行後、3年を目途に見直すものとする。

附則

この規程は、2015年(平成27年)4月1日から改正、施行する。

附則

1 この規程は、2017年(平成29年)4月1日から改正、施行する(細則への名称変更、条文の修正)。

2 この改正前の受講生に係わる第4条、第5条、第13条～第15条、第23条、第26条及び第27条の適用については、なお従前の例による。

【上智大学グリーフケア研究所臨床傾聴士に関する内規】

制定 2018 年 4 月 1 日

(趣旨)

第 1 条 この内規は、上智大学グリーフケア研究所人材養成講座細則（以下「細則」という。）第 27 条第 1 項の定めにより、上智大学グリーフケア研究所（以下「研究所」という。）が付与する臨床傾聴士の資格について必要な事項を定める。

(定義)

第 2 条 臨床傾聴士とは、グリーフ(悲嘆) やスピリチュアルな痛みを抱える個人や共同体に寄り添い耳を傾けるケア提供者であって、研究所が認定する者をいう。

(資格付与要件)

第 3 条 臨床傾聴士の資格は、細則第 5 条第 1 項第 1 号に定める「グリーフケア人材養成課程」の所定の単位を優秀な成績で修得しかつ所定の総合審査に合格した者又はこれに準ずる者に対して付与することができる。

(名称)

第 4 条 臨床傾聴士の資格を得た者は、「上智大学グリーフケア研究所認定臨床傾聴士」又は「臨床傾聴士（上智大学グリーフケア研究所認定）」と称することができる。

2 臨床傾聴士の資格を得た者は、前項に定める名称のみを使用し、名称の省略又は改変を行ってはならない。

(資格の更新)

第 5 条 臨床傾聴士の資格の有効期間は 5 年間とする。

2 次に掲げる各号のすべてに該当する者に対して、臨床傾聴士の資格を更新する。

(1) 研究所が主催する講座修了生を対象とした「実践・研究発表会」において、5 年間に 1 回以上の発表を行うこと。

(2) グリーフケア、スピリチュアルケアにかかる活動実績を、5 年間に 1 回提出し、研究所の審査に合格すること。

3 前項の各号に定める資格更新を行わなかった者は、臨床傾聴士の資格を喪失する。

(資格の剥奪)

第 6 条 臨床傾聴士が次の各号のいずれかに該当すると認められたとき、研究所は、臨床傾聴士の資格を剥奪する。

(1) 「上智大学グリーフケア研究所認定臨床傾聴士行動規範」に抵触したと認められたとき。

(2) 臨床傾聴士の名称を不適切な目的で利用したとき。

(3) 上智大学及び上智大学グリーフケア研究所の名誉を毀損、若しくは信用を傷つける行為があったと認められたとき、又はこの内規に抵触する行為があったと認められたとき。

(4) その他臨床傾聴士として不適切な行為があったと認められたとき。

2 前項第 2 号及び第 3 号により、上智大学又は研究所に損害を与えたとき、学校法人上智学院はその損害の賠償を請求することができる。

(その他)

第 7 条 この内規に定めのない事項については、上智大学グリーフケア研究所運営委員会が定める。

(内規の改廃)

第 8 条 この内規の改廃は、上智大学グリーフケア研究所運営委員会の意見を徴し、本学院の定める手続きにより行う。

附則

この内規は、2018 年（平成 30）年 4 月 1 日から施行する。

上智大学グリーフケア研究所 グリーフケア人材養成講座
グリーフケア人材養成課程・資格認定課程
2024 年度履修要覧・シラバス

編集・発行 上智大学グリーフケア研究所【大阪サテライトキャンパス】
〒531 - 0072 大阪市北区豊崎 3-12-8 サクラファミリア 2 階
Tel 06-6450-8651 Fax:06-6450-8652
Email i-grief@sophia.ac.jp
